2001 AIDS文化フォーラムin横浜
報告書

総　合　目　次

●「２００１ ＡＩＤＳ文化フォーラム in 横浜」　ごあいさつ　1

●開催概要
・継続するＡＩＤＳ文化フォーラム（開催経過）　2
・会場風景（写真）　6

●特集　～中学生と高校生のボランティアががんばっています～　8

●プログラム報告　１２
・発表プログラム　１４
・展示プログラム　３４
・実行委員会特別プログラム～バリアについて考える～　４０
・インターネットによる情報提供に関する新しい試み　４２
・関連プログラム　４４
・ボランティアについて　４５

●資料編
・新聞等への掲載記事　４６
・支えた人／グループ一覧　５７

●付録
・ライフ・エイズ・プロジェクト　ニュースレター　３２号　50～56
＊巻末よりお読みください。

「2001AIDS 文化フォーラム in 横浜」
ごあいさつ

1994 年から始まった「ＡＩＤＳ文化フォーラムｉｎ横浜」（第８回）が、今年も無事開催されましたことを、皆様方に感謝と共に、ご報告いたします。

世界・アジアそして日本で、確実に感染者が増えているにも関わらず、社会的な関心が低下してきているという現実を踏まえ、参加団体の減少、参加者の減少を心配していましたが、結果的には昨年を上回る 72 のプログラムを実施し、参加者も微増し 3,946 名の参加を得ました。

今年も日本全国から多くの参加団体、個人が集まってくれました。組織委員会、実行委員会、参加団体、ボランティア、行政が協力しあい、市民主体のフォーラムとして、今年も運営することができました。

今年のフォーラムの特徴は、AIDS・HIV をより広い視野からの社会問題ととらえ「バリア」をテーマに考えていきました。パラリンピック金メダリストの成田真由美さんと感染者の桜屋伝衛門さん（仮名）のトークショウやハンセン病に関して考える企画また HIV と薬物依存に関する企画などが増えました。

「学校教育」にスポットをあてたプログラムも増えました。高校生が自分たちの展示スペースを持って企画してくれました。高校の茶道部による茶亭もありました。高校の養護教諭を対象にした企画も多くの先生達の活発な意見交換がされました。

そして、文化フォーラムの"文化"を問い直し、様々な表現方法でエイズとそれを取り巻く課題を考える機会がありました。開催中、会場の前にはボランティアの手で大きな絵が描かれました。歌も踊りも太鼓もありました。

全国各地で AIDS・HIV に関わる方々の活動状況、情報が会場の中でシェアされ、関係者の交流がすすんだことは嬉しいことです。閉会式の際には、多くの団体が来年の参加を約束してくれました。「ぜひ、続けてほしい」という声が、これほど大きいとは、驚きと共に責任の大きさも感じています。

参加者の皆さんと一緒に、「2002ＡＩＤＳ文化フォーラムｉｎ横浜」への取り組みをスタートさせたいと考えています。

２００１年３月３１日

「2001ＡＩＤＳ文化フォーラムｉｎ横浜
組織委員長　山根誠之
実行委員長　広瀬　誠

継続するＡＩＤＳ文化フォーラム
（開催の経過）

１　開かれた場

『「ＡＩＤＳ」というキーワードは、人間のことを真剣に考える切り口の一つだと思います。そういうキーワードに人が集まるとキマジメでないと許されないという雰囲気になりがちです。文化フォーラムのすばらしさは、握り拳をふるわなくても参加していいというスタンスにあると思います。これは大事にしていきたい。』ある実行委員の言葉です。

『ＡＩＤＳという病気に影響を受けた人たち、今後、確実にこの病気に出会っていく人たち、特別な病気ではないけど、特別に関わろうとする人たちが、人間の根源に関わる切実な課題を、多様性という最も人間的なアプローチで、社会と自らの偏見と差別のハードルを超えて、安心できる場を成立させること』が、文化フォーラムの文化の所以です。

２　多様性と手弁当

自分の言いたいこと。やりたいことを持ち寄って全国から集まる文化フォーラムの参加者は、北海道の医者も、九州の弁護士も、千葉の教師も、都内の歴史あるＮＰＯも、横浜で動き出したばかりの市民グループも、みな同じ条件、手弁当で集まってきます。

このフォーラムのフィールドには、医療・教育・人権・女性・企業・異文化・セクシュアリティ・ボランティア・若者・命・ＰＷＡ（患者・感染者・家族）等の幅広い視点と、シンポジウム・講演・ワークショップ・公開授業・電話相談・映画・写真展・スライド・朗読・舞踏・合唱・ビデオ・キルト・展示といった様々な手法が、バイキング料理のように並びます。全国からの参加者も、自分の求めるものを得ながら、自分の経験と情報を提供していきます。そういう対等で双方向の関係が、開かれた場を実感させてくれます。

３　開催の経過

▽　市民のフォーラム

ＡＩＤＳ文化フォーラムは、1994年8 月に横浜で開催された「第10回国際エイズ会議」に連動して始まり、医療関係者中心の国際エイズ会議（参加費8 万円）に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で、国内のＮＧＯ・ＮＰＯが集い、様々な視点でＨＩＶ／ＡＩＤＳの問題に取り組み、偏見と差別でのみ語られたＡＩＤＳという病気に対する市民レベルの新しいアプローチとの高い評価を得ました。

そして「この成果を一過性のものに終わらせることなく継続して」という全国からの強い要望を受け、第２回（1995年）、第３回（1996年）と、開催を継続してきましたが、ＨＩＶ／ＡＩＤＳに関するマスコミ報道の激減など社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少やプログラムのマンネリ化という様々な課題も明らかになりました。

▽　新たな工夫と挑戦

第４回（1997年）を開催するに当たり、徹底した評価・検証の中で、「社会的な関心が落ち込んできている時だからこそ、より積極的に打ってでよう」という結論に達し、実行委員会主催のシンポジウムや、より多くの関心を得るために映画を上映したり、手を上げてくる参加団体を待つだけでなく、教育や企業、ＰＷＡ（患者・感染者）といった幅広い視点で参加してほしい団体へ積極的に呼びかけていくこと、更に、会場を県国際交流協会から、より交通至便のかながわ県民センターに移し、幅広いボランティアの参加の可能性を探るとともに、会場規模も倍に拡大し、新たな挑戦の年としました。

その結果、4,600 人（前年の約３倍）もの入場者を迎えることができ、低落傾向に歯止めがかかりました。関心が低下している状況でも、一か所にエネルギーを集中させれば、いままで集まりきれていなかったエネルギーが、行き場を見つけて集まってくるし、ＡＩＤＳに関する潜在的な関心は決して低くなかったという自信も生まれました。

▽　量から質へのシフト

そして第５回（1998年）は、ターゲットを絞り全国の拠点病院やエイズ教育推進校に参加を呼びかけ、過去最高の5,700 人の参加者を迎えることができました。しかし、３日間にギュウギュウに詰め込んだプログラムと、参加者の大幅な増加は、落ちつきのない参加者やボランティアの動きを生み、実行委員も会場運営だけに追われ、自分たちは何を提供するためにこのフォーラムを開催しているのかという原点の問い直しがでてきました。特にボランティアが成長する場として機能しきれていないという反省が大きくなりました。

そこで第６回（1999年）以降は、ゆったりとした会場構成と時間設定、そして、複数のチーフボランティアを中心とした事前ワークと自主的な会場運営など、新しい工夫が加わりました。結果、入場者は３千人台と半減しましたが、各コマとも落ちついた議論と交流を生み、ボランティアの活躍や、全国からの専門職の参加は、量から質の市民フォーラムへの新しい一歩を確認させてくれました。

４　フォーラムの仕組み

このフォーラムは、第１回から地域の民間団体等が、責任の所在として組織委員会を作り、県内のＨＩＶ／ＡＩＤＳに係わるキーパーソンたちが、実行委員としてフォーラム全体のフレームを企画・構成し発表を全国に呼びかけ、その中で全国の市民団体が手弁当でコマ毎の講座などを主催し、会場運営を市民ボランティアが支え、参加者は入場無料とする。という体制を創ってきました。言わば基本ラインは全て市民が担ってきました。

今回（第７回）も、事務局を横浜ＹＭＣＡが引き受け、横浜商工会議所、エイズ予防財団等が資金を提供し、13歳から70歳のボランティア100 名が会場運営を支えました。

また、行政との連携という点では、県衛生部は、映画の上映や、写真展で、横浜・川崎市も展示や講座でフォーラムに参加し、市民が作った枠の一コマに行政が参加するというスタイルをとっています。

さらに、「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という従来からの発想を、「市民側が専門職に情報交換と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転させ、今では市民団体のみならず全国の医療や教育の専門家たちからも、横浜の夏の恒例行事としてすっかり期待されています。

このフォーラムが行政主導のイベントだったら、３年目の入場者の減少の段階で「初期の目的は果たした」として打ち切られていたかも知れません。運営費に税金を使わず、側面協力を得るだけで開催してきた自律的な活動だからこそ続いているのだと思います。

５　継続することの意味

このフォーラムが継続できている事の社会的な意味はとても大きいと思います。それは毎回数千人の人たちが参加する国内では、唯一の全国規模のＨＩＶ／ＡＩＤＳに係わる情報交換と交流のかけがえのない場になっていること。また、この全国規模のフォーラムを市民のネットワークが支えていること。

これは、市民が地域で全国規模の催しを支えるとてもいいモデルとなると思います。自律した団体や個人が、お互いに本当にやりたいこと伝えたいことを独立採算で持ち寄り協力して働くことで、大きな力を生み出すというこのスタイルは、個々の持てる力を紡ぐ中で、信頼関係という副産物も作りだします。

そしてこの信頼関係が、時代に沿った知恵を生み、継続する力となります。ＡＩＤＳ文化フォーラムの、このスタイルが、様々な課題やテーマに応用されることを期待します。

６　これから

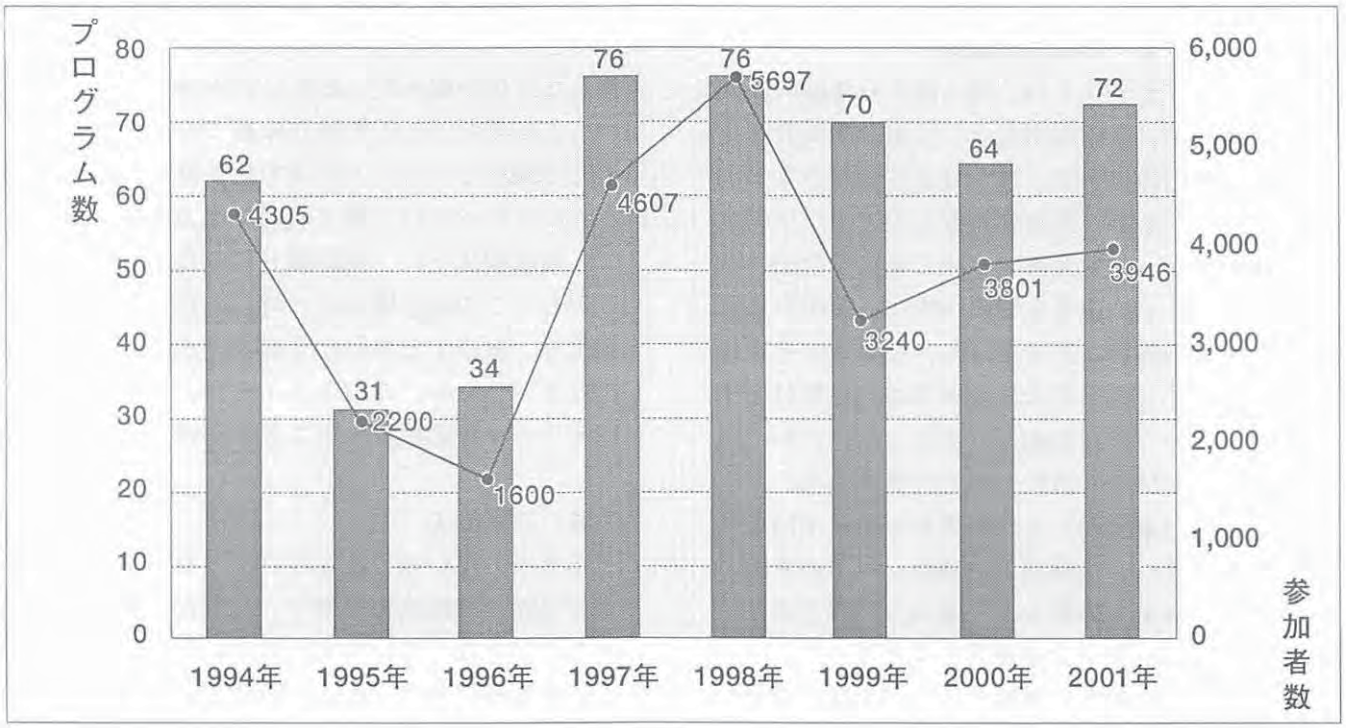
手弁当で集い始めたこのフォーラムも、いまや８回の開催実績の中で、全国から期待される存在となっています。期待に応える心地よい責任感の中で、いつも時代のニーズを見きわめ、新しい動きをリードする学び合いの場として、これからも継続できればいいなと考えています。皆さんとともに。

ＡＩＤＳ文化フォーラム実行委員会

7　参加者等の推移

回数 概要	第1回 1994 年	第2回 1995 年	第3回 1996 年	第4回 1997 年	第5回 1998 年	第6回 1999 年	第7回 2000 年	第8回 2001 年
開催日 開催日数	8/6～14 9 日間	8/11～13 3 日間	8/9～11 3 日間	8/8～10 3 日間	8/7～9 3 日間	8/6～8 3 日間	8/4～6 3 日間	8/3～5 3 日間
会場	神奈川県国際協会			かながわ県民センター				
プログラム数 （1日あたり）	62 6.9	31 10.3	34 11.3	76 25.3	76 25.3	70 23.3	64 21.3	72 24
参加者数 （1日あたり）	4,305 名 478 名	2,200 名 733 名	1,600 名 533 名	4,607 名 1,536 名	5,697 名 1,899 名	3,240 名 1,080 名	3,801 名 1,267 名	3,946 名 1,315 名

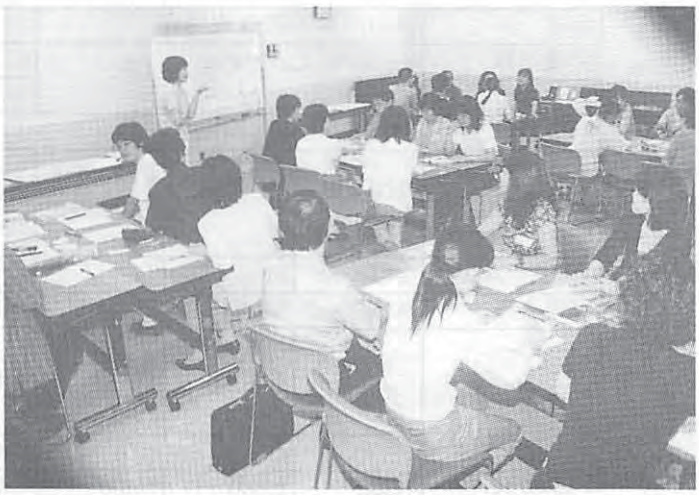
■　文化フォーラム８年間の推移

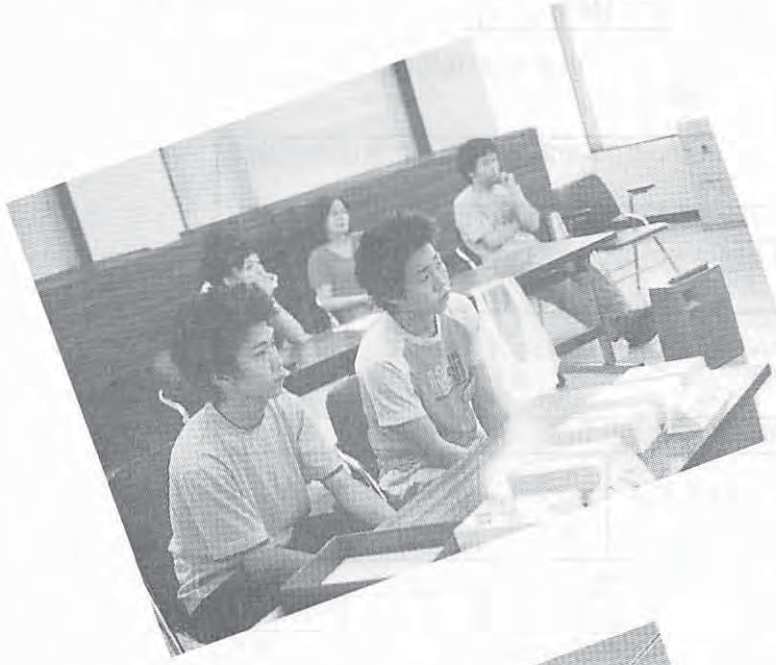


AIDS文化フォーラムin横浜
開催の概要と経緯

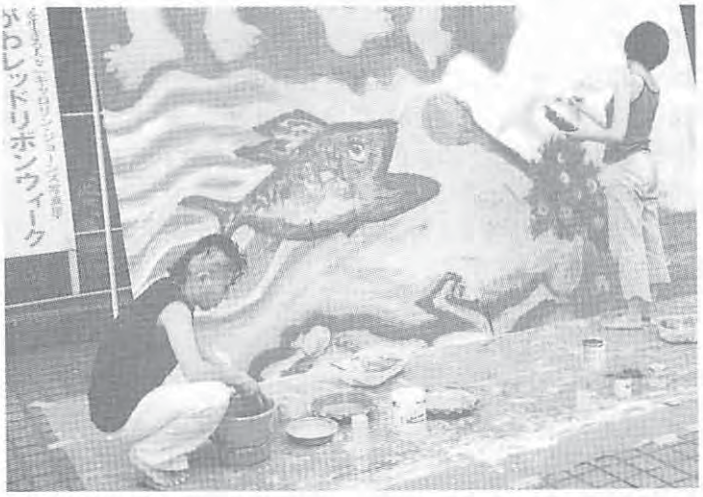
年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	2000年	2001年
回	1	2	3	4	5	6	7	8
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター				
会議室数	3会議室			6会議室		8会議室		
他の会場				ホール・展示場				
開催日数	8日間	3日間						
開催テーマ	市民と海外NGOによるAIDS会議	ともに生きる	ともに生きるから連帯へ	未来へのつどい	エンパワーメント自立と共働に向けて	いまを生きる	いま、一人ひとりができること	いま、一人ひとりができること
プログラム数	会場内58	31	34	72	76	70	64	72
実施主体	個別プログラム毎に責任を持つ			＋実行委員会企画を加えテーマを深める				
話題		母親が語る薬害エイズ	性風俗とAIDS	映画：秋桜	TV神様もう少しだけ	複数の作家の写真展	女性プログラム	バリアについて考える
				PWAの主体的な参加				
入場者数	4,305	2,200	1,600	4,607	5,694	3,240	3,801	3,946
特徴	感染経路を問わず、エイズとそれをとりまく状況を、多様に考えていく							
市民版AIDS会議として		参加者の減少傾向		参加者の増加傾向		減少	安定	安定
	国際AIDS会議との連携	国際会議をきっかけとした市民グループの参加		様々な市民活動グループの参加（県民活動サポートセンター利用団体の参加）				
参加団体	東京の団体が中心	新しい団体の参加（実験的プログラム）		テーマに沿ったプログラムを実現するために意図的な参加呼び掛けも行う				
来場者	会議参加者と一般市民	地元の市民中心		全国からの参加		一般参加者の減少		
				医療・教育関係者の増加		全国からの専門職の増加		
広報	ポスターパンフレット			プログラム表を全国の保健所、エイズ教育指定校に配布				ホームページのスタート
マスコミ	取り上げ大	減少傾向		夏の定番記事として取り上げ				
社会背景	アジアで初の国際会議	薬害エイズの報道増加	薬害エイズの和解	カクテル療法	障害者認定	ピル解禁、感染症予防法	女性用コンドーム、薬害乱用も	ハンセン病
組織委員	エイズに取り組む民間7団体で構成し、フォーラムの責任を負う							
実行委員	約50名	約15名	約17名	約19名	約20名	約20名	約20名	約20名
実行委員の構成	プログラム参加団体	医療関係とHIV/AIDSに係わるボランティア団体中心			HIV/AIDS関係活動以外のボランティア経験者も参加			
実行委員会開催状況	3回	4回		約15回（準備会含む）				
						小委員会も開催		
報告書	未作成	A4版/54頁	A4版/54頁	A4版/120頁	A4版/76頁	A4版/68頁	A4版/80頁	A4版/56頁
		活用できる報告書を目指し作成						
ボランティア	会場運営に市民ボランティアを公募							
		かながわエイズボランティア講座（県からYMCAに委託）						
				かわさきエイズボランティア講座（川崎市事業）				
				夏休み中の学生ボランティア増加				
				ボランティア担当実行委員		チーフボランティア制		
事務局	横浜YMCA							
課題	継続	社会的関心の低下・入場者減		ボランティアコーディネート		内容と対象の明確化		マンネリ化

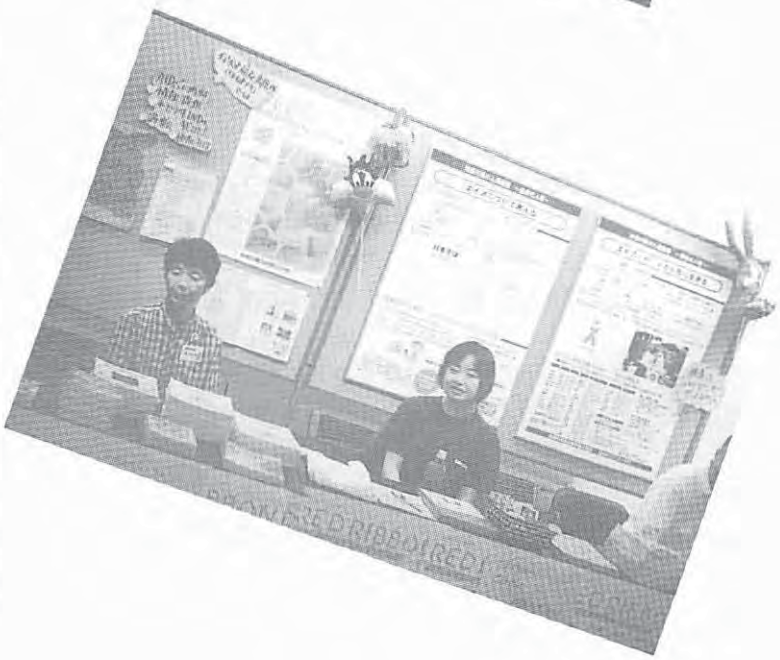
会場風景（写真でみる





AIDS文化フォーラム





特集～中学生と高校生のボランティアががんばっています～

川崎市立平間中学校

２００１ ＡＩＤＳ文化フォーラムに参加して

教諭　山口　ちづこ

５～６年前、初めてＡＩＤＳ文化フォーラムに参加したとき、その日初めて出会った人に「ここに来て良かったことは、あなたに会えたことです。」という言葉を貰いました。たった２時間、一緒に過ごしただけなのに…とても嬉しい出来事でした。

フォーラムに行けば出会いがある。－その体験を多くの人に広げたい。－できるだけ身近な人から始めたい。それが中学生の参加につながりました。

私個人のフォーラム参加の目的は、職業柄、「ＨＩＶ感染者の思いを伝える授業」をする力をつけるというものでした。本を読む、どこかで講演を聞くだけでは表面的なものになってしまう。それより、私が直接、感染者やその家族に出会って、自分の中を通して生徒に感染者の、家族の気持ちを伝えていくという授業実践者になることは今も続いている目標です。今年は一人ではなく、ともに学ぶ職場の同僚と約２０名の生徒がいました。中学生のボランティアは周囲の方々にご迷惑をかけるのでは？…と心配していましたが、皆さんに「偉いわね」と声をかけていただき、日頃、誉められることが少ない中学生は自分の存在を肯定する事ができました。とても励みになりました。また、中学生に接する機会の少ない方たちには、「中学生って可愛いんですねエ」と言っていただき、本来の中学生の姿を見てもらう事ができたようです。世間ではいろいろなことを言われる中学生ですが、多くの若者は純粋で信じることができる存在です。今後は、中学生が主体となって講座を主催、運営する、そのサポートを私がするという展開を思い描いています。

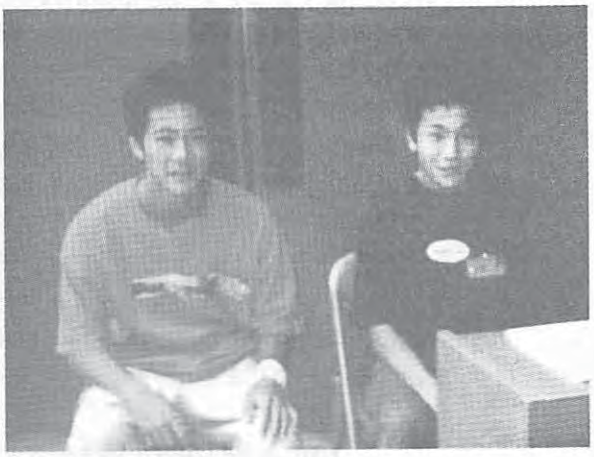
毎年、熱い思いにさせてくれるＡＩＤＳ文化フォーラムに感謝！

１年　坂橋　友里

私は、最初ボランティアは難しくて大変なものなのかと思っていました。でも、実際にやってみると簡単でとても楽しいものでした。私が担当した講座は「ＡＩＤＳを伝えるネットワーク」でした。私のほかにも二人いて、大学生くらいのお姉さんでした。とても、優しくて、積極的に行動していました。私には友達のように接してくれました。私はＡＩＤＳのことを全然知らなかったのですが、講座を見ているうちにＡＩＤＳはみんなで考えなければならない大切なことなのではないかと思いました。まだまだ知らないことばかりですが、これからたくさんＡＩＤＳの事を知っていきたいと思いました。

シフトが１５：００までだったので途中で帰ることになりましたが、一緒にボランティアをした二人のお姉さんとのお別れが少し寂しかったです。ボランティアは何も貰えないけど人のために何かをすることだと思いました。でも、よく考えてみると今回の体験でたくさんのことを知ることができ、何かとても大切なものを貰ったと思います。私にもできたのですから、ボランティアは誰にでもできるものだと思います。そして、多くの人たちにボランティア体験をしてほしいと思いますし、自分自身もたくさんのボランティア体験をしていきたいと思います。

ＡＩＤＳ文化フォーラムで出会った皆さん、ありがとうございます。



総合受付

ＹＭＣＡ高等学院

生徒と一緒にボランティア

ＹＭＣＡ高等学院　１年生担任　矢部　尚美

ＡＩＤＳ文化フォーラムには第１回より事務局や実行委員として関わってきました。毎年、たくさんのボランティアの方と交流することにより、私自身も成長したように思います。さまざまな世代の人と接することができるのがＡＩＤＳ文化フォーラムのボランティアの魅力です。

私は現在ＹＭＣＡ高等学院１年生の担任をしています。生徒がたくさんの人と交流し、少しでも何かを感じてくれたらと願い、フォーラムでのボランティアを勧めたところ、３名がボランティアとして参加してくれることになりました。当日は、教室とは違った環境の中で、小学生から７０代までのボランティアとともに、会場をサポートしてくれました。会場で、生徒の表情が生き生きとしているのを見た時は、うれしさもありましたが、ほっとした気持ちにもなりました。元気いっぱい書籍の販売をしたり、中学生と楽しそうに会場準備をしたりと、生徒たちは教室とはまたちがった満足感や達成感があったようです。そして、たくさんの皆さんに誉めていただいたこともうれしかったようです。高校生を暖かく見守って下さった皆さんに感謝しています。

この８年間の中で、生徒と一緒にボランティアをした今年のフォーラムは、私にとって忘れられない３日間となりました。

YMCA 高等学院１年生の３名（野崎優さん・伊原光明君・丁子谷菜央さん）に
ＡＩＤＳ文化フォーラムでのボランティアについてインタビューをしました。

◆どんな活動をしましたか？

（野　崎）まず、１階の総合インフォメーション前でパンフレットを配りました。たくさんの人がパンフレットを受けとってくれてうれしかったです。あと、講座の準備や片付けなどもしました。

（丁子谷）初日は講座の受付をしました。机やイスの準備が大変でしたが、講座中は講座を聞くことができて、岩室先生とパトリックのお話はわかりやすくて、おもしろかったです。２日目と３日目は、１階展示場で書籍の販売をしました。

◆今回のボランティア活動で楽しかったことはどんなことですか？

（伊　原）交流パーティにも参加して、料理もおいしく、他のボランティアの人とたくさん話せたことが楽しかったです。

（丁子谷）書籍を売りながら、たくさんの人とコミュニケーションできて、大きな声でＰＲをしてストレス解消ができました。本もたくさん売れ、完売したものもありました。そして、ボランティアの方や関係者の方にたくさん誉めてもらってうれしかったです。

◆今回のボランティアで大変だったことはありますか？

（伊　原）初日はあまり緊張しませんでしたが、なぜが２日目からは緊張し、でも、３日間がんばりました。会場では、初めてのボランティアと慣れているボランティアがいて、役割分担が難しかったです。

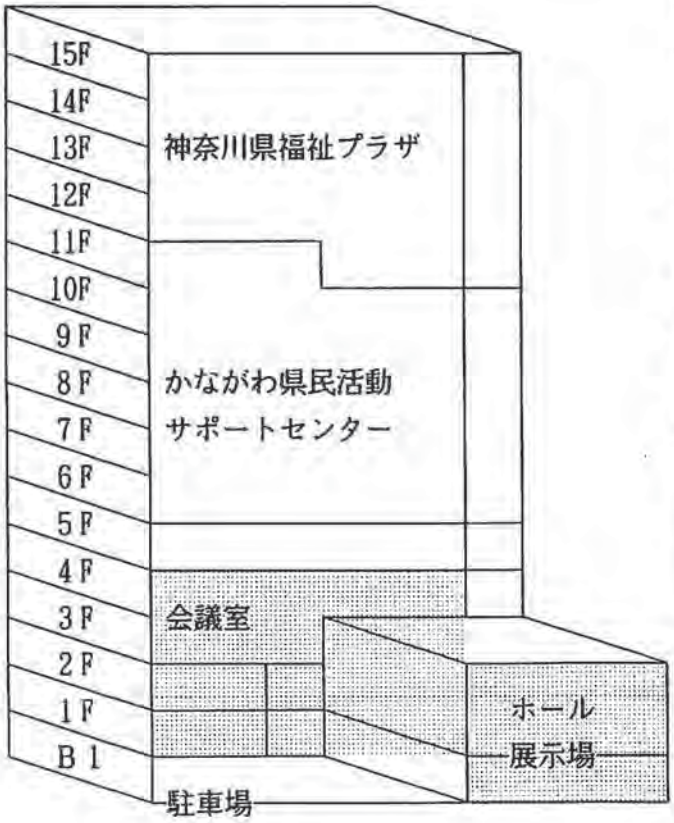
◆ボランティアをしてみてどうでしたか？

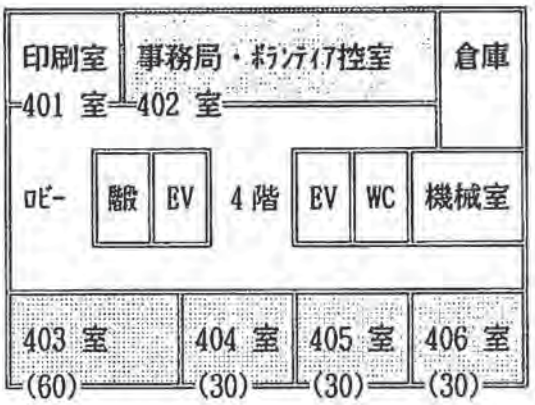
（伊　原）小学生ボランティアがいたり、中学生が元気にボランティアをしていたりと、高校生でも充分にできる活動でした。

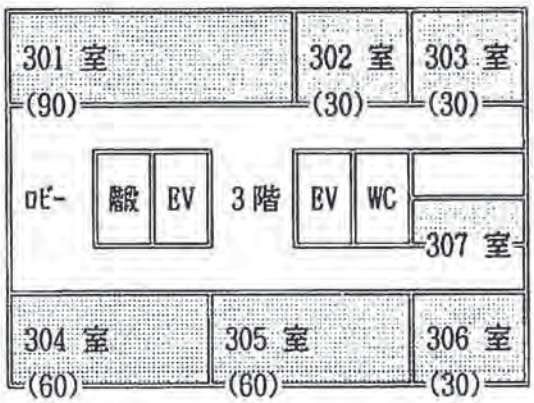
（野　崎）私にとっては、今回が初めてのボランティアでした。ボランティアと聞くとすごく大変なイメージがありましたが、実際にはとても楽しかったです。

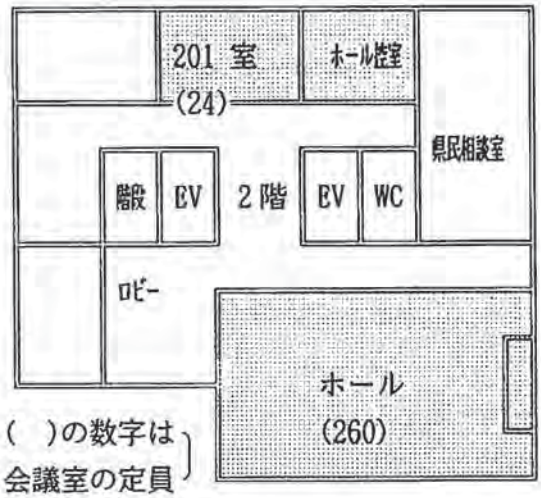
AIDS文化フォーラム会場図

かながわ県民センター





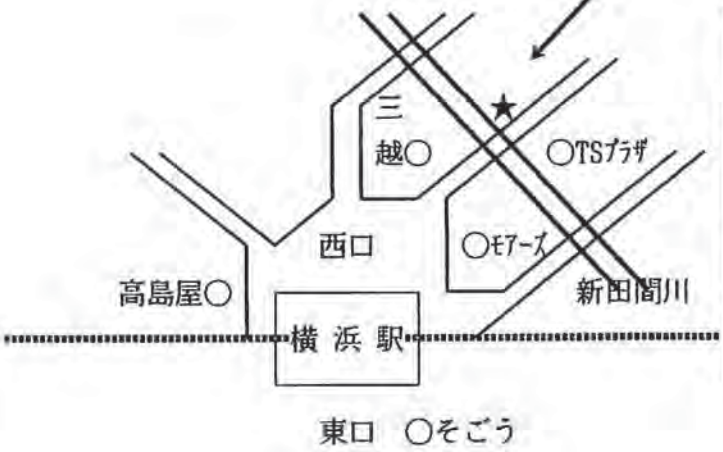




〔( )の数字は会議室の定員〕

〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター
TEL 045-312-1121 FAX 045-312-4810

横浜駅西口より徒歩5分



「2001　ＡＩＤＳ文化フォーラムin横浜」プログラムスケジュール

		10:00～12:00	13:00～15:00	16:00～18:00
8/3（金）	ホール		P.14 (151) ABCキルトは世界を駆け巡る（全国研修会）（ＡＢＣキルトJAPAN）	P.14 (151) ABCキルトは世界を駆け巡る（全国研修会）（ＡＢＣキルトJAPAN）
	301	開会式（１２：１５～　１階展示場）	P.15 (58) 北沢杏子のエイズ模擬授業および「タイのエイズ孤児たち」（性を語る会）	P.16 (65) ますますPositive??? （パトリック＆紳也）
	302			P.17 (14) どっこいそれでも生きているぜ！（ｻｰｸﾙ　ﾎﾝ）
	303		P.15 (25) 作ろう！！AIDSの新聞広告（AIDSねっとさがみ）	P.17 (23) タイのエイズ事情・YMCAのエイズへの取り組み（横浜YMCA）
	304		P.16 (91) 薬物乱用…いま、何をどう伝えるか（水谷修）	
	305		P.16 (40) エイズ患者診ます（HIVとつきあう開業医の会：西村有史）	P.18 (20) 体験してみよう「ﾀｲの農村でのｴｲｽﾞ教育」（ｼｪｱ）・（特定非営利活動法人ｱｰｺｽ仏教国際協力ﾈｯﾄﾜｰｸ）
	306			P.18 (9) 警視庁さん、まだAIDS差別をするんですか？　（HIV不当解雇訴訟を考える会）
	403			P.19 (7) 絵と踊り（成田右子）
8/4（土）	ホール	P.19 (79) 映画「DRUG」（神奈川県青少年協会）	P.22 (20) みんなでサルサ～究極のセーファーボディコミュニケーション～（北山翔子）	P.40 (83) 「バリアについて考える－成田真由美＆桜屋伝衛門」
	301	P.19 (25) 性感染症入門講座－STD・HIV－パートⅡ（同仁斎メディカルクリニック：西大條文一）	P.23 (75) 「セイファーセックス講座 "pro-sex"」（AIDSネットワーク横浜）	P.25 (43) 国連エイズ特別総会報告（AIDS&Society研究会議）
	302	P.20 (13) AIDSを伝えるネットワークTENCAI　How to Workshop基礎　（鮎川葉子＆吉永陽子）	P.20 (16) AIDSを伝えるネットワークTENCAI　How to Workshop理論（鮎川葉子＆吉永陽子）	P.20 (16) AIDSを伝えるネットワークTENCAI　How to Workshop実践（鮎川葉子＆吉永陽子）
	303			P.25 (6) ゲイのための参加型ワークショップ（アカー）　*対象はゲイのみ
	304	P.21 (17) 学校や地域で役立つ朗読ワークショップ（H.I.Voice　Act）		
	305	P.22 (69) 結局、やっぱり、ｺﾝﾄﾞｰﾑ（岩室紳也）	P.24 (55) PNYの保健婦　見直し　世直し大作戦？！　（Peer　Network　Yamagata-Yokohama）	P.24 (27) PNYの保健婦　見直し　世直し大作戦？！（Peer　Network　Yamagata-Yokohama）
	306	P.20 (14) AIDS漫談（桜屋伝衛門＆グループめると）	P.17 (23) タイのエイズ事情・YMCAのエイズへの取り組み（横浜YMCA）	P.26 (22) ピルー「安全神話」の落とし穴（「エコロジーと女性」ネットワーク）
	403	P.20 (25) HIV予防啓発のための（誘発要因）と（スキル）（特定非営利活動法人　動くｹﾞｲとﾚｽﾞﾋﾞｱﾝの会）	P.21 (35) 子どもと共に学ぶエイズと性教育（ｻｰｸﾙ　ﾎﾝ）	P.26 (30) ファシリテーター入門－HIV/AIDSをどう伝えるか－　（横浜エイズ勉強会）
	404		P.24 (9) 英語教材を授業でどう生かすか（JAPANetwork）	P.27 (8) イラン人ゲイ難民シェイダさんを救え！（チームS・シェイダさん救援グループ）
	405		P.23 (34) 「エイズから見た日本の社会と文化－エイズ裁判を通して－」（Cuopus AIDS Interface）	P.27 (23) 私の立場で考えるバリアフリー（ｿｸﾗﾃｽﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ）

交流会　8月4日（土）１８：００～　３０１会議室　参加費500円（軽食付）入場自由				
		10:00～12:00	13:00～15:00	
8/5（日）	ホール	P.28 (102) HIVがくれたもの （岩室紳也・北山翔子&桜屋伝衛門）		全体会＆閉会式 （１５：１５～　ホール） 全体会：テーマ （いま、ひとり一人ができること） 司会：岩室紳也＆矢部尚美
	301		P.32 (40) 総合学習でエイズを子どもたちがどう学んだか　（“人間と性”教育研究協議会かながわｻｰｸﾙ）	
	302	P.29 (18) ＡＩＤＳと性行為感染 （エイズアクション）	P.31 (28) 女性用コンドームをどのように伝えていくか（使用法のコツとデメリットの克服）　（大鵬薬品）	
	303	P.30 (29) 感染者を交えて語る「未来とその課題」　（ぽーとたまがわ）	P.32 (22) ヘテロとゲイの同性生活エイズについて2人で語る　（ｻｰｸﾙ　ﾎﾝ）	
	304	P.30 (12) 英国及び我国におけるNGOとGOの共働（HIVと人権・情報ｾﾝﾀｰ）	P.30 (16) 英国及び我国におけるNGOとGOの共働（HIVと人権・情報ｾﾝﾀｰ）	
	305	P.30 (15) 「AGPからだの相談」の質的検討（AGP同性愛者医療・福祉・教育・ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ専門家会議）	P.33 (57) 学校における感染者によるエイズ教育の効果　（せかんどかみんぐあうと）	
	306		P.32 (9) PHA（HIV感染者・AIDS感染者）の法律問題と人権救済制度（特定非営利活動法人動くｹﾞｲとﾚｽﾞﾋﾞｱﾝの会）	
	403	P.29 (31) セクシュアリティ入門講座２ （ﾗｲﾌ･ｴｲｽﾞ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ）		
	404	P.31 (25) 性教育に困っている養護教諭の為のつどい（進行：荒井美恵＆高橋かん奈）	P.33 (30) DRUG＆AIDS（神奈川県青少年協会）	
特別プログラム	8/4	16:00-「バリアについて考えるーﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ金ﾒﾀﾞﾘｽﾄ成田真由美＆桜屋伝衛門」　ブロードバンド中継（生中継） URL:http://www.i-aids.org/　協力：C.A.I（Capmus AIDS Interface）		
	8/4・5	P.26 12:30-13:00　横浜DARCによる琉球太鼓（写真は表紙に掲載）(82)		
	8/4・5	アクション・ペインティング（岡田阿礼＆涌井陽一）		
	8/5	12：00-13：00　茶亭　（高校生茶道部によるお茶の振る舞い）(38)		
8/3	展示	JAPANetwork	大鵬薬品工業（株）	“人間と性”教育研究協議会　かながわｻｰｸﾙ
		AIDS＆Society研究会議	AIDSねっとさがみ	横浜エイズ勉強会
｜	1階	横浜AIDS市民活動センター	AIDSネットワーク横浜	神奈川県立有馬高校
		社団法人神奈川県青少年協会	性と健康を考える女性専門家の会	AIDSねっとさがみ（新聞一面広告）
8/5	展示場	オカモト株式会社	横浜YMCA ACT	神奈川県保健予防課
		性を語る会	かながわレッドリボンプラザ	「聞かせて！教えて！エイズのあれこれ」
		ﾗｲﾌ･ｴｲｽﾞ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	ECPAT/ストップ子ども買春の会	特定非営利活動法人　動くｹﾞｲとﾚｽﾞﾋﾞｱﾝの会
		高校生エイズフォーラム		
		展示場：8/3　573名	展示場：8/4　559名	展示場：8/5　441名

＊ホームページはいつも最新のものに更新されています。URL:http://www.yokohamaymca.org/AIDS/
＊プログラムによっては、プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがありました。

発表プログラム

No. 1	タイトル：ＡＢＣキルトは世界を駆けめぐる（全国研修会） 主　　催：ＡＢＣキルトＪＡＰＡＮ

ねらい：全国的に広がりつつあるＡＢＣキルトの研修会をＡＩＤＳ文化フォーラムで開催し、会員、学校の先生、一般の方々が集まって、様々なボランティアの取り組みとその成果を発表する。

ながれ：参加者は製作したベビーキルトを持ちより会場に展示。このことで暖かい雰囲気に包まれた研修会となった。全国研修会ということでホールを使わせてもらい、１５８名が参加して４時間に渡って行われた。

第１部：学校での取り組みを２校の先生と１グループが発表。生徒たちがＡＢＣキルトを通してエイズを身近なこととして考えるきっかけになっていることや、人のために何かができるという素晴らしい体験をすることが今の学校生活で必要になっているという。続いて１グループの代表がＡＢＣキルトに寄せる思いを話し、最後に本部の活動が報告された。大きいスクリーンを使って映像をみながらの説明は解りやすく、内容的にも充実していた。

第２部：参加グループ及び学校の活動紹介が代表者や先生たちによって行われた。中でもファイバーリサイクルをモットーに古着などを有効利用してキルト作りをしているグループや自分たちを信じてどう行動するかが大切という生徒たちの取り組みがよかった。

来場者感想：

・同じ目的を持って活動している沢山の人たちとエイズの赤ちゃんに贈られる沢山のキルトが集まっていい会であった。

・発表や報告の内容がよかったので会が充実していた。

連絡先：ＡＢＣキルトＪＡＰＡＮ　堤　希代子
〒814-0122　福岡市城南区友泉亭 17-18　　TEL／FAX：092-524-0631

No. 2	タイトル：「ＡＢＣキルトは世界を駆けめぐる」 県立有馬高等学校保健委員会からの報告

エイズの国際会議が'94 年に横浜で開催されたのをきっかけに、エイズから目を逸らさず身近なことからはじめようと活動を翌年スタートしました。'96 年の夏大和保健所で開催された「ＡＢＣキルト」教室に参加し学校のみんなに広めました。表地だけ一針一針心をこめて縫い合わせる作業はとても楽しく進みますが仕上げとなると難しく途方に暮れていました。その時、保健所で指導を受けた上村さんより連絡があり、「縫い合わせた表地を送れば仕上げを引き受けますよ」との朗報が入り、以来神奈川県下の小・中・高の学校にも広められその輪が年々大きくなっていること、そして連携プレーの大切さを伝えました。

連絡先：〒243-0424　神奈川県海老名市社家 240 番地　神奈川県立有馬高等学校
TEL：046-238-1333　FAX：046-238-7980　　保健委員会顧問　下嶋　歌子

No. 3	タイトル：北沢杏子のエイズの模擬授業および「タイのエイズ孤児たち」 主　　催：「性を語る会」 講　　師：北沢杏子

内容：代表の北沢杏子が、国際協力事業団（ＪＩＣＡ）の要請でチュニジア共和国のリプロヘルス教育強化専門委員として派遣された（２００１年５月）、イスラム国での性教育の難しさを報告。また、２０００年１１月にタイ・チェンマイ市周辺で取材したドキュメンタリービデオ『ママもパパもエイズで死んだ――タイのエイズ孤児たち』を上映。

そのあと、毎年好評の“エイズの模擬授業”を行い、参加者による紙芝居の実演に、爆笑と拍手がわいた。展示ブースでは、ラオスおよびチュニジアでの、北沢杏子によるワークショップ風景のパネルと、北沢杏子・著／訳のＨＩＶ／ＡＩＤＳ関連書籍、教育用ビデオ、教材などの展示をした。

来場者感想：タイのエイズ孤児のビデオに感動した。エイズはいまや南北問題であるというお話に、認識を新たにしました（４０代教員・女性）／エイズの紙芝居は、面白くてわかりやすくて感激しました。さっそく実践してみたいです（３０代保健婦・女性）／セックスに関するＳＡＦＥ・ＳＴＲＯＮＧ・ＦＲＥＥのロールプレイは、とても難しかったが、大切な問題なのでずっと考えていきたい（２０代学生・女性）

連絡先：アーニ出版内「性を語る会」　〒158-0092　東京都世田谷区用賀3-5-6
TEL：03-3708-7326　　E-mail：shima@ahni.co.jp

No. 4	タイトル：「作ろう！ＡＩＤＳの新聞広告」 主　　催：ＡＩＤＳねっとさがみ

ねらい：相模原市桜まつりで行ったＨＩＶ／ＡＩＤＳについてのアンケートの結果報告と、このアンケートで一番多くの人がＨＩＶ／ＡＩＤＳという言葉を知るきっかけになったと答えている新聞の一面広告作りを通して、どんな啓発活動ができるかを来場者とともに考える機会にできたらと思いました。

ながれ

1アンケート
2ＡＩＤＳねっとさがみ活動紹介
3リラックスタイム
4アンケートの結果紹介
5新聞の一面広告づくり
6作品発表会
7まとめ

来場者感想：ＨＩＶ／ＡＩＤＳについて、新聞作りを通じて熱く語れて、大変びっくりしています。／広告を作ったりするのがとても楽しくていい勉強になりました。／広告を作るというコンセプトに意味があって参加しました。

連絡先：ＹＭＣＡ相模大野ステーション　〒228-0803 相模原市相模大野3-16-15 相模大野スカイビル3F
TEL:042-740-5501　FAX:042-740-5503

No. 5	タイトル:薬物乱用 ── 今、何をどう伝えるか ──
	講　　師:横浜市立戸塚高等学校定時制教諭　水谷　修

ねらい:現在日本は、戦後第三回目の覚せい剤乱用期を迎えています。しかも、今回の乱用の中心となっているのは、中高生を中心とする若者たちです。若者の薬物乱用は、多くの場合集団で行動することから、非常に短期的に汚染が広がりやすい大きな問題です。今回のフォーラムでは、会場の参加者を中高生に見立てて、薬物についての予防教育を実際に試みました。今まで、ともするとこの問題に関しての予防教育は、薬物の怖さを伝えることを通した単なる脅し教育である傾向がありました。薬物についての様々な情報に若者たちが晒されている現在、このような脅し教育はマイナスが多いと感じます。まずは、きちんと薬物についての知識を身につけることから、自らを薬物から守ろうとする意志を育てる教育こそがあるべき予防教育であると考えます。

来場者感想:ただ単に、子供たちに「だめ、絶対」と言い続けるのではなく、「なぜだめなのか」を自ら考えさせる教育の大切さを知りました。/子供たちを一人の人間として、きちんと向き合って学びあい、いきあうことの大切さを知りました。

連絡先:水谷修　〒233-0006　横浜市港南区芹が谷2-14-14　TEL/FAX:045-822-2879

No. 6	タイトル:エイズ患者診ます
	主　催:HIVとつきあう開業医の会:西村有史

連絡先　:西村くりにっく
〒828-0021 福岡県豊前市大字八屋2267-1　TEL:0979-82-2161　FAX:0979-82-2162

No. 7	タイトル:ますますPositive????
	主　催:パトリック　&　紳也

ねらい:HIV と共に 12年以上生きているパトリックの生の声を聞いてもらい、一人の人間の生き方、医者と患者の関係性について考える参考にしてもらう。

ながれ:パトと主治医でもあり、友人でもある紳也ドクターとのトーク。パトリックは HIV に感染して今年で13年。感染した当初はとても21世紀まで生きているとは思ってもいなかったのが薬の進歩で元気ですが、今の悩みは仕事、収入が減ったこと。でも猫も犬も元気で、フレンチブルのブーちゃんはかわいい赤ちゃんを産みました。日常生活の報告を含め、ポジティヴに生きている姿を見ていただくと共に、多くの人が参加してくれることでパトもたくさんの元気をもらいました。Thank　You　!!!

来場者感想:HIV 感染していることを過大評価するでも過小評価するでもなく、HIV であることを自然体で生きているパトの生き方はとても刺激的でした(30 代・男性・自由業)/彼は自分の病気についてひとかけらも後悔していないし不幸だとも思っていない、とても強い人だと思う(10 代・女性・学生)/お話を聞いていて、自分の気持ちも上向きになってきました(20代・女性・保健医療関係)

連絡先:パトリック
TEL&FAX:03-5725-2347
E-mail: fa4j-bmmr@asahi-net.or.jp

岩室紳也　厚木市水引1-16-36 県立厚木病院泌尿器科
TEL:046-221-1570　FAX:046-222-7836
E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp

No. 8	タイトル：どっこいそれでも生きているぜ！ 主　　催：サークル ホン 講　　師：洪 久夫（ホン ヒサオ）

ねらい:エイズについての今までの生き方など

ながれ：今年はじめてエイズ文化フォーラムの中で、誕生日を迎えた洪 久夫（ホン ヒサオ）氏が、ＨＩＶに感染してからの四年間の生活状況、今の自分の健康状態などを説明しました。

来場者感想：ホンちゃんはよく生きているなー。生きてるだけでエライなー。と思いました。（かりすま占い師 ４０代 男性）正直に自分の事を話すのは、実は大変むつかしいと思います。よく頑張って話してくれたと思います（その他 ４０代女性）

連絡先：代表 洪 久夫（ホン ヒサオ）
〒164-0012　東京都中野区本町6-17-12　フローラ新中野202
TEL:03-3384-0549　（ＦＡＸ無し）携帯090-2912-0752（非通知不可）

No. 9	タイトル：タイのエイズ事情・YMCA のエイズへの取り組み 主　　催：横浜 YMCA 講　　師：Chularat Phongtudsirikul　　協　　力：チェンマイ YMCA

ねらい：東南アジアで一番 HIV/AIDS 感染者が多いと言われるタイ。チェンマイ YMCA 副総主事にタイにおける HIV/AIDS の現状と YMCA の取り組みを聞き、生の声に耳を傾けることによって、ひとり一人がそして、地域で何ができるかを考えていく。

ながれ：スライドを使って、タイにおけるエイズの現状とチェンマイ YMCA の取り組みが説明された。「毎時間９人のタイ人が亡くなっている。毎日５００人のタイ人がエイズに感染している。」というショッキングなスライドタイトルで説明が始まった。プレゼンテーション後は質疑応答。新しい政府による施策に国民の期待が高まっていることも聞けた。

来場者感想：

・地域に関係なく世界で協力すべき問題。貧困は情報の伝達等も遅くなってしまうという悲しい事実を知った。
・タイの方が HIV/AIDS が世の中にオープンにされていると思った。
・講師の人柄の良さが伝わってきた印象的なセミナーだった。もっと積極的な提案、アピールが欲しかった。

連絡先：横浜 YMCA　〒231-8458　横浜市中区常盤町 1-7
TEL：045-662-3721　FAX：045-651-0169

No. 10	タイトル：体験してみよう「タイの農村でのエイズ教育」 主　　催：シェア＝国際保健協力市民の会＆特定非営利活動法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク

ねらい：シェアがタイ東北部農村地域にて行っているエイズ啓発活動を紹介し、かつ参加者に体験してもらった。タイのエイズ状況とシェアの経験や手法を理解してもらうと共に、また日本社会のエイズ状況に反映させながら私達に出来ることを考えた。特に、エイズ問題は私達にも関係があり、自分の命は自分で守らないといけない、という点を認識し行動に移すことの大切さを考えた。

ながれ

1. 団体の活動紹介とタイのエイズの状況説明
2. タイ東北部の村の生活の説明
3. シェアのエイズ教育の実践

(A：AIDSの知識についてのｶｰﾄﾞｹﾞｰﾑ、B：水の交換、C：AIDSの問題意識を高めるグループワーク)

4.まとめ

来場者感想：参加型で面白かった/同じような教育手法を日本でも広げるべきだと思った/教育の手法として参考になった/水の交換は授業に使いたいと思った

連絡先：シェア＝国際保健協力市民の会 〒112-0004 東京都文京区後楽2-20-18 掛川ビル101号
TEL：03-5800-4778／FAX：03-5800-4779／E-mail：share@tokyo.email.ne.jp
・特定非営利活動法人アーユス仏教国際協力ネットワーク 〒134-0024 東京都江東区清澄3-4-22
TEL：03-3820-5831／FAX：03-3820-5832／E－mail:tokyo@ayus.org

No. 11	タイトル：警視庁さん、まだAIDS差別をするんですか？ 主　　催:HIV不当解雇訴訟を考える会 講　　師:棗（なつめ）一郎弁護士　警視庁HIV不採用訴訟原告

ねらい:警視庁HIV感染者の採用拒否の裁判経過と、いまだに続いている行政のHIV感染者に対する就職差別について考える。

ながれ:〈棗弁護士〉事件の経過　1997年に原告は警視庁の公務員試験を受け合格、1998年警察学校に入校し健康診断を受ける。その後、上官から警察病院で再検査するよう指示があり検査を受ける。入校式前日上官から呼び出され「君の免疫力はかなり低下している」と伝えられ、強制的に辞退するよう一筆書かされ捺印する。その後、別の都立病院で検査を受けるが「通常の労働には耐えられる」との診断がでる。

〈原告〉東京都は「仕事の内容と特殊性によって包括的な合意の下でHIV検査する事ができ、場合によっては解雇もあり得る」と言っておりはっきりとした基準がない。

〈棗弁護士〉本件は東京都という公的な機関を相手とした日本で最初のHIV不当解雇訴訟であり、厚生労働省の通達を無視した見解で、東京都は法律では無いと主張している。又、警視庁と（財）警察病院が協同して同意のないHIV抗体検査を実施し、原告に渡されるべき検査結果のデータは未だ行方不明で、行政の病気への認識不足が暴露した事件である。

連絡先：HIV不当解雇訴訟を考える会
〒231-0045　横浜市中区伊勢佐木町2-66満利屋ビル8F　横浜AIDS市民活動センター内
弁護団事務局　さくら通り法律事務所（清水　勉弁護士）
〒160-0003　新宿区本塩町12　四谷ニューマンション309
TEL：03-5363-9421　FAX：03-5363-9856　E-mail: tutomus-@wb3.so-net.ne.jp

No. 12	タイトル：絵と踊り 主　　催：成田右子

内　容：自作の絵と踊りで、今、私にできることを表現しました。

No. 13	タイトル：映画「ＤＲＵＧ」 主　　催：社団法人神奈川県青少年協会

ねらい:マムシのいる湿地にそれとは知らず入ろうとする子どもを見て止めない人はいないだろう。もし止めないで子どもがマムシに噛まれ、重傷を負ったり生命を落としたとしたら、その人は一生悔やむにちがいない。映画の中のドラマは東京、渋谷の街だけにあるのだろうか？ 否、薬物乱用の実態はすでに日本各地に広がっている。そして悲劇的結末はドラマの結末をもしのぐ。
映画は他山の石ではなく、氷山の一角なのだ。

ながれ:映画「ＤＲＵＧ」の上映　（１時間５３分）

来場者感想：とてもよい映画だった。感動しました。多くの人に見てもらいたいです。（茨城県・４０代女性・保健医療関係）／学校でも生徒たちに見せたい。（神奈川県・５０代女性・教育関係）／水谷氏の講演の後だったのでとてもリアリティを感じた。感動です。（長野県・１０代女性・学生）

連絡先：社団法人神奈川県青少年協会　〒222-0024　横浜市港北区篠原台町6-16
TEL：045-402-0346　FAX：045-402-0362　E-mail：kya@netpro.ne.jp

No. 14	タイトル：性感染症入門講座 —STD/HIV— パートⅡ 主　　催：西大條文一

急告：昨年のフォーラムの当講座において，筆者が「資本主義の必然として日本・アメリカは戦争（大量破壊・殺戮）をしなければ景気も雇用も回復しない」と発言したことに関し，アンケートで「８月６日という日に何を言う」等の御批判を多く頂戴した。しかし，いまや諸氏も御存じのように上記発言が予言として的中しつつあることに，反戦・反米・反安保を掲げる小生も心を痛めずにはいられない。

ながれ：STD各論を述べ，HIV感染との関係を症例を挙げて説明。最近はやっているクラミジア，EBウイルス感染症，尖形コンジローマ，ヘルペスなどについて詳述。のちに質疑。

来場者感想：・少々難しかったです。
・いろいろ情報を入手できてよかったです...今後の参考にしたいです。
・本当に貴重な時間だと思います。各論にもう少し時間をかけて予防につながるような感染の実際についてお話しいただけたらもっとよかったと...など

連絡先：北新宿同仁斎メディカルクリニック
〒169-0074　東京都新宿区北新宿3-1-3 第二山武ビル２階
TEL:03-3369-6030　　FAX:03-3369-6029

No. 15	タイトル：AIDSを伝えるネットワーク TENCAI 「How to make Workshops」 講　　師：鮎川葉子＆吉永陽子

ねらい：AIDSを伝えるネットワーク（TENCAI）では、『AIDSを伝えるためには、正しい知識よりむしろ「伝えようとする意志」が必要である。』という視点を持ち、AIDSを伝える「意志の強化」と、伝える「技術の取得」を目指したAIDS-AWARENESS（AIDSの気づき）トレーニングを開催してきました。

今回のフォーラムでは、「ワークショップは誰でもできる」というコンセプトのもと、特に学校など保健教育の現場でAIDSを伝えなければならない人を対象に、簡単にできるAIDSのワークを学びながら、実際のワークを運営する留意点やポイントを伝える１日間（３コマ）の連続プログラムを開催しました。

ながれ：テキストに従い、大まかには次のような流れでした。

10:00-12:00（１コマ）基礎編　「AIDSを伝える」ことの意味について学びます。

ねらい「ワークのイメージを固め、ワークを作るための動機づけを考える」

13:00-15:00（２コマ）理論編　「AIDSワークショップ」の展開法について学びます。

ねらい「ワークに必要な環境づくりと、ファシリテーターに必要な気づきを固める」

16:00-18:00（３コマ）実践編　実際にワークを作る中で、実践のこつをつかみます。

ねらい「実際にワークプランを作成する中で、参加者への配慮について考える」

来場者感想：「ワークショップって何だろうなあ、と思ってきました。AIDSのことだけでなく、いろいろな分野で使えるな、と思います。」（小学校教師）、「自分もファシリテートをやったりするので、勉強になりました。特に２コマ目の『自分の壁を知る』ワークは大事だと思いました。」（団体職員）、「旅費はかかったが、タダで中身が濃くてお得だった。体系的にみれて、いつも無意識でやっていることを確認できました。」（NPOスタッフ）、「ワークを近々やるので、安全な場の雰囲気作りができるか不安。朝から来れば良かったです。」（保健婦）

連絡先：TEL:03-5256-3534 FAX:03-3795-5277 E-mail:ayukaway@jca.apc.org

No. 16	タイトル：AIDS 漫談 主　　催：桜屋伝衛門＆ぐるーぷめると　講　　師：桜屋伝衛門　　協　力：グループめると

ねらい：シリアスになるほど言いづらい事がふえていくのではないか？と疑問をもった我々が、笑えるエイズの話を目指して企画しました。

ながれ：ランダムなキーワードからトークを展開し、エイズの語られていなかった部分に迫る。

No. 17	タイトル：HIV 予防啓発のための（誘発要因）と（スキル） 主　　催：特定非営利活動法人　動くゲイとレズビアンの会

内容：予防啓発をどんな発想で行ったらいいか考えたい人に。「スキル」を最も重視して、ゲイ男性を対象にグループ・インタビューから見えてきたことを紹介。

連絡先：特定非営利活動法人　動くゲイとレズビアンの会
〒164-0012 東京都中野区本町 6-12-11　石川ビル 2F
TEL:03-3383-5556　　FAX:03-3229-7880

No. 18	タイトル：学校や地域に役立つ朗読ワークショップ 主　催：H. I. Voice Act 講　師：岡島 龍彦　　協　力：H. I. Voice編集局

ねらい：感染者・患者とその家族・友人たちの様々な声を伝える通信誌「H. I. Voice」を活用したワークショップの手法を紹介し、参加者それぞれが、学校や地域で応用しHIV／AIDSについての理解の輪を広げていく。

ながれ：①ペアで交代しながらのマッサージ（肩もみ）でリラックス（皆、笑顔で丸顔になる）
②ペアになり、好きな場所・時間・人を聞き取って他己紹介（この場の皆を認め合う）
③H. I. Voice誌の掲載文章の抜粋や詩を全員で輪読（様々な立場の声を読む）
④感想・意見交換（この場に実際の投稿者も何人か参加していて、直接的な声も聞く）
⑤ウォーキング（教室の端から端まで歩く）で、共に歩む仲間のいる安心感を体感する

来場者感想：●いろんな人の話が聞けて良かった。友人に伝えたい（長野・10代・学生）
●強く生きている人たちを知り、とてもいい体験をした（神奈川・10代・学生）
●初めての体験で不思議な気分、生きることを見つめ直した（東京・20代・学生）
●一人で読むのと違い皆に聞いて欲しい気持ちを実感した（新潟・20代・保健医療関係）
○参加型のワークショップでどう想いを伝えるのか参考になった（奈良・20代・NPO）
○地元に帰ってこんなワークショップを中高生を対象にやりたい（香川・20代・学生）
○様々な立場でHIVに関わる人の声が聞けて良かった（兵庫・30代・保健医療関係）
○参加させる為のテクニックなど早速学校で活用したい（神奈川・30代・教育関係）
●体を動かすことと朗読の組み合わせで、体験的に共感した（北海道・30代・教育関係）
●ほのぼのとした雰囲気でとても楽しかった（千葉・40代・教育関係者）
●このグループワークの方法を地域でもプログラムしたい（青森・50代・保健医療関係）

連絡先：岡島龍彦　TEL：090-2468-8014

No. 19	タイトル：子どもと共に学ぶエイズと性教育 主　催：サークル ホン 講　師：洪 久夫&金子 由美子　　協　力：川口 子どもネットワーク

ねらい:学校生活での性教育の授業 学習などの説明

ながれ:金子 由美子氏が、今、学校の中での性教育また性感染症など子ども達にどんな授業などを行っているかの説明をしました。

来場者感想：エイズの治療の現状について、聞けてその大変さを知る事が出来てびっくりしまいました。元気でいる事をお祈りします。（４０代女性）／「人間をまるごと理解する」という事をほんとにそうなんだなとつくづく思いました。（５０代女性教育関係者）

連絡先：代表 洪 久夫（ホン ヒサオ）
〒164-0012　東京都中野区本町6-17-12　フローラ新中野202
TEL:03-3384-0549（ＦＡＸ無し）　携帯：090-2912-0752（非通知不可）

No. 20	タイトル：結局、やっぱり、コンドーム 主　催：岩室紳也（神奈川県厚木保健所医師）

ねらい:性感染によるＨＩＶ感染予防のためにはコンドームが非常に重要な役割を果たします。昨年の同じセッションで「生活習慣としてのコンドーム」を提唱しました。今年は若者がコンドームを使いやすいように、レッドカード、イエローカードタイプのコンドームケースを提案し紹介しました。

方法：セックスをしたくないなら「Ｎｏ」、コンドームが大事だと思うなら「つけて」の一言が言えればいいと大人は思ってしまいます。しかし、その一言が言えない若者が少なくありません。サッカーのイエローカード、レッドカードにならって「愛しているならつけて」（イエロー）、「今日はＮｏ！」（レッド）のメッセージが書かれた１個入りコンドームパッケージを作成し、コンドーム装着の実演・実技を含め、実際的なコンドーム教育法を紹介しました。

来場者感想:イエロー&レッドカードコンドーム、とても楽しく会話のはずむGoodsですね（40代、女性、NGO/NPO)。目をつぶって表裏が分からなかった。何回もつかっているのに目をつぶるとわからないのだとわかってよかった（20代、女性、学生)。全くはずかしさのない、一つの道具として学べました（20代、女性、教育関係)。実技もあってつかえるエイズ教育です（40代、男性、保健医療関係)。

連絡先：岩室紳也　〒243-0004　神奈川県厚木市水引2-3-1 神奈川県厚木保健所保健予防課
TEL：046-224-1111　FAX：046-225-4146　E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp

No. 21	タイトル：みんなでサルサ 主　催：北山翔子

ねらい:サルサは男女ペアで踊り、しかも「男らしさ」「女らしさ」を目一杯表現することが求められるということで、セックスと同様のコミュニケーションが実感できる。究極のセーファーセックスであると主催者は考えている。究極のボディコミュニケーションーサルサーを通じて、言葉以外のコミュニケーションの楽しさを体験してもらう。

ながれ:１サルサについて　２リズムの取り方　３ベーシックステップ　４シャインステップ（リズムに慣れよう！）　５ターン　６ペアで踊ろう　７本場（ニューヨーク）のサルサ：ビデオ

来場者感想：からだを動かすって楽しい！！でもつかれた！！ほんまに究極かもしれぬ。セックスに通じる快感ですねえ（20代、女性、学生)。北山さんがサルサをもう好きで好きでしょうがないというのが伝わってきました。何か１つでもやりたいことを持つというのもいいなと思いました（20代、女性、教育関係)。体に響く、音を受け止め自然に身体を動かしていけることで“生きていること”を実感できる１つであるということを再認識できました。大事なことであると思いました（40代、女性、保健医療関係)。感情開放するにはダンスが一番！！（40代、女性)。汗をかいてよかった（50代、男性)。

連絡先：岩室紳也（北山翔子講演依頼も承ります）
〒243-0004　神奈川県厚木市水引2-3-1 厚木保健所保健予防課
TEL：046-224-1111　FAX：046-225-4146　E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp

No. 22	タイトル:「セイファーセックス講座 “pro - sex”」 主　　催：AIDS ネットワーク横浜 講　　師：桃河モモコ

ねらい：HIV 感染者・AIDS 患者をこれ以上ふやしたくないとの願いから、今まで様々な手法をとりあげてきた・・・。が有効なものを見出すことは甚だ困難である。今回は視点を変えて、日頃から、仕事上感染予防に心血を注いでおられるプロの立場からセイファーセックスをとりあげた。

ながれ：１ショータイム「あなたにもできる４８手」

コスチュームをつけ、男性アシスタントを相手にレクチャーをまじえて、ショーを実施、必ずコンドームをつけることや、ショー形式で体位の解説、メリットなどについて説明が行われた。

２．セイファーセックス講座

人間の安全とは何か、肉体的、精神的、社会的の面から説きおこし、HIV 感染の成立について解りやすく説明がおこなわれた。

３．Q&A

質問用紙（セックスについてどうしても聞きたいあんなコト、だれにも言えないこんなコトについて書いてください）によるもの１７件があった。質問内容を同類項にまとめて解説がおこなわれた。その他直接フロアーからの質疑応答があり、時間が超過するほどであった。

来場者感想：ショウの動きがきれいだった。

うちの方（島根県）でもこういう企画をやりたい。

連絡先：〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町 2-66　満利屋ビル８階
横浜 AIDS 市民活動ｾﾝﾀｰ内 AIDS ネットワーク横浜　TEL：045-262-8811　FAX：045-262-8811
E-Mail: any@netpro.ne.jp　　URL：　http://www.netpro.ne.jp/~any/

No. 23	タイトル：エイズから見た日本の社会と文化ーエイズ裁判を通してー 主　　催：CAI（Campus AIDS Interface） 協　　力：中前康友さん（鹿児島大学HIV訴訟原告）　　ちょこさん（警察庁HIV訴訟原告）

ねらい：HIVに感染した人々がおこした裁判を何件かピックアップし、裁判をおこすに至ったプロセスをたどることによって、日本という国においてエイズがどのように問題化されていったのかを探る。裁判の事例をふまえた上で、感染者とともに私たち一人ひとりにできることとは何なのか、また予防啓発とはどのようなものなのか、会場の皆さんとディスカッションをする。

来客者感想：・当事者のお話を直接伺えて、日本の「世間」の現実が身近に感じられました。（４０代／女性）・「エイズの予防啓発」と言ったときにやはり差別と向き合うことなしに取り組むことはできないだろうと思います。学校現場でも普段、全くエイズは話題にのぼらない。この無関心さが最も危険ではないかと思います。（３０代／教育関係者）

連絡先：〒170-0003 東京都豊島区駒込 4-4-15-301
TEL：090-3962-0221　FAX：03-3918-0739　　E-mail:cai@excite.co.jp
URL：http://www.cai.presen.to/

No. 24	タイトル：ＰＮＹの 保健婦　見直し　世直し大作戦?!
	主　　催：ＰＮＹ　ぴにぃ（Peer Network Yamagata—Yokohama）
	進　　行：渡會睦子（PNY・保健婦）大谷重夫(HIV 感染者)　　協　　力：ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの皆さん
	ゲ ス ト：荘田智彦氏　“保健婦-「普通」を守る仕事の難しさ(出版：家の光協会)”の著者

ねらい：HIV/AIDS を担当する保健婦は、HIV 抗体検査前後のカウンセリング・採血、感染を心配する方・ＰＷＡの電話・面接相談、住民・学校・医療従事者等への講演会・研修会等を行ってきた。しかし、保健所によって力の入れ方はまちまちなのが現状だ。保健婦であっても、HIV/AIDS 問題を切実に感じていなければ、問題であることを忘れてしまっていることも多い。

第一部では、これらを受け“保健婦－「普通」を守る仕事の難しさ(出版：家の光教会)”著者の荘田智彦氏を迎え“健康を守ることとは何か”“重要な保健婦の仕事とは何か”等、保健婦の根本を見つめ直しながら、今後の HIV/AIDS 対策を検討していくことを目的で開催した。

第二部では、第一部を受けて、参加いただいた方々・保健婦さんに、“今感じていること”“問題に思っていること”“地域の現状”“社会資源としての保健婦をどう活用していくか”等々、自由に本音の言える座談会を開き、今後、保健婦が保健所に持ち帰ってやってみることは何か、これから何をやっていくのかを検討することを目的に開催した。

ながれ：第一部　“ＨＩＶってなぁに?　保健婦ってなぁに?”

1講演1）渡會 睦子　ＰＮＹで活動する意味

2）大谷 重夫　普通を変える病気HIV/AIDS

3）荘田 智彦氏“保健婦-「普通」を守る仕事の難しさ”

第二部　“これからの保健婦とみんなの健康!!　HIV 対策”

1 座談会 ①会場参加者から、今の現状と問題点　② 討論

2 まとめ(持ち帰ってやってみること・保健婦に必要な HIV/AIDS 対策)

来場者感想：HIV/AIDS 対策を考えることは、保健婦の活動全般につながるということを再確認できた。(保健婦)・HIV/AIDS について立ち止まって考えちゃいけないと思った。みんなで考えよう!!(教育関係者)・本音で話し合える場があることをはじめて知った。次年度も参加したい!!・違う立場の三者の話が聞けてよかった。もっと保健所と学校と交流をもちHIV/AIDS について、教員・子供たちに知らせていきたい。(教育関係者)・保健婦さんが外に向かって一歩踏み出してアピールしていく大切さを知った。(NGO)・引き続きみんなで話し合っていきたい(保健婦)・行動に移すための勇気をもらいました(保健婦)

＊参加者 64 名　協力者を募集し、今後も会を継続していくことになった。

連絡先：ＰＮＹ代表　渡會（わたらい）睦子　　E-mail：mutsuko@mub.biglobe.ne.jp
〒990-2212　山形市上柳 260(山形県立保健医療大学内)　TEL：090-2272-0122　FAX：023-686-0076

No. 25	タイトル：英語教材を授業でどう生かすか？
	主催：ＪＡＰＡＮｎｅｔｗｏｒｋ（ジャパンネットワーク）

ねらい：英語の授業の中でエイズ教材を使って、みんなで考えながら、正しい知識を学ぶ。

ながれ：英語の授業なのでスムーズに知識の取込みができるように、レベルにあわせる事が大事。
生徒に質議応答をくり返す事で全体のレベルを上げていく。
そのための教材（プリント、ビデオ等）を用意する。

来場者感想：分かりやすく、目新しい授業の進め方でおもしろかった。/ロールプレイングゲーム等で正確な知識を得られる。/教育現場で真剣に取り組んでいない（いけない？）現在、色々な方法で生徒に情報を出す事を親も教師がもっと考えなければならないと思う。/自分にも感染する可能性は、十分にある！と言う、身近な問題として考えなければ、感染はいつまでたっても特別なひとの問題になり、差別意識の改善にならない。

連絡先：E-mail：aidsed@gol.com

No. 26	タイトル：国連エイズ特別総会報告 主　　催：特定非営利活動法人AIDS&Society研究会議 報 告 者：樽井正義（慶應義塾大学・AIDS&Society研究会議事務局次長） 宮田一雄（産経新聞社・AIDS&Society研究会議理事）

ねらい：6月25日から3日間、ニューヨークで開催された『国連エイズ特別総会』の全容を紹介しながら、エイズをめぐる世界の動きと日本におけるNGO活動との関連性を再確認する。

ながれ：まず、ニューヨークで総会の取材にあたった産経新聞の宮田記者より報告がなされた。UNAIDSが作成した資料により、悲惨を極めるアフリカをしのぐ状況が近い将来アジアでも懸念されることが示されたのち、日本の感染の状況について説明がなされた。続いて、2000年の国連安保理におけるエイズ集中討議からエイズ特別総会にいたった経緯が、記者ならではの手腕で知り得たエピーソードを交えて紹介された。また、最終日に採択された政治宣言（コミットメント宣言）のポイント、総会（全体会議）の内容と裏話、日本政府の対応、世界エイズ保健基金などがわかりやすく紹介された。

続いて、日本政府代表団のNGO顧問として総会に参加した慶應義塾大学の樽井教授から、エイズに関わるNGO/CBOの国際ネットワークが紹介され、そのひとつであるICASOが特別総会以前から行ってきた国連への働きかけが報告された。また、コミットメント宣言の草案作成をめぐって当事者（HIV感染者）やコミュニティ、NGOがその全過程にあたりまえのように参画したことが紹介され、日本における政府のやる気とNGOの力量、そして両者のパートナーシップへの期待が強調された。

連絡先：特定非営利活動法人AIDS&Society研究会議
〒162-0045　東京都新宿区馬場下町60まんしょん早稲田401　TEL&FAX：03-3200-0399

No. 27	タイトル：ゲイのための参加型ワークショップ 主　　催：NPO法人アカー

安心して参加してもらえるようにと、参加者をゲイに限定して毎年開催しているこの分科会には、今年は関東、東海、四国、九州からの参加者が集まりました。セイファーセックスを主なテーマに、環境、意識、方法といった３つの大事な側面を、輪になってゲームをしながら経験や想像から考えるワークショップを開催しました。

エイズやＳＴＤ予防の意識や知識があっても、いざセックスのときになると事情や状況があって実行できないことってあるもの。でもそんなことをみんなで想像してみることで、もっとセイファーセックスに身近になれるはずですよね。「セイファーセックスを行動に移しづらいとき（場面や対人関係）は？」「どうやったらセイファーセックスはしやすいの？」と問いかけ、各自の思いをカードに書いて発表しあいました。模造紙に何十枚も貼られたカードには、露骨な（リアルさこそグッド！）セックスの描写、各々の恋愛観、性的ファンタジーがたくさんあって、興味あるものには質問が矢継ぎ早に出てきました。セイファーセックスってそんなに単純に遂行できるわけではない、という何気ない事実が確認されました。また、「ゲイだから遠慮なく、楽に参加できた」という感想もあり、エイズ予防（自分にも他人にも）にはセックスについて安心して話し合える「ポジティブな雰囲気」の大切さも感じてもらえたようです。最後には、イラスト満載のゲイのためのセイファーセックスのガイドブックを使ってのセイファーセックスの基礎知識を共有し、まとめとして、より具体的な理解を深めました。来年も開催する予定です。

No. 28	タイトル：“ピルー「安全神話」の落とし穴” 主　催：「エコロジー」と女性ネットワーク 講　師：吉田由布子（主催者）、山下柚実（ノンフィクション作家）

ねらい：「安全」との触れ込みで承認された低用量ピルだが、実際はどうか。死亡を含む海外での副作用被害はマスコミではほとんど報道されてこなかったし、現在もされない。そうした事実とホームページ「ピル110番」に寄せられた副作用被害について伝え、ピルと避妊、そして報道の問題を考える。

ながれ：1．吉田より、海外の副作用被害の状況、ピルの危険性についての新しい医学的情報、HP「ピル110番」に寄せられた、承認以降の日本での副作用や医師の対応などの問題を提起。

2．山下さんより、「薬害エイズ」に関わった経験をふまえて、ピル承認までの報道が「安全論」に偏っていたマスコミの問題点を提起。

参加者感想：

低用量ピルがこんなに危険だと思わなかったので勉強になった。事故責任能力を高めて、お互いの性的関係を気付く学習が大事だと思った（40代教育関係・女性）／ピルを使用したことがあるが、死亡例があるのは知らなかった。ただ副作用が強調され過ぎているように思う（20代教育関係・女性）／ピルに限らず一般市民への情報は、どの程度信頼できるか自分で確認していかねばと考えさせられる（40代保険医療関係・女性）／いかに我々が限られた情報の中で生きているか。自分にとって真に必要な知識や情報は待っているだけでは与えられないと感じた（30代・男）

連絡先：HP「ピル110番」URL: http://www.home.att.ne.jp/sea/pill-110 E-mail: yosida-y@tkd.att.ne.jp

No. 29	タイトル：ファシリテーター入門　～HIV/AIDSをどう伝えるか～ 主　催：横浜エイズ勉強会

講師：金光律子（GAP）

ねらい：ワークショップという参加型学習を行う上で、ファシリテーターの役割を学び、勉強会の手法を元に、HIV/AIDSを伝えるワークショップのあり方を考える。

ながれ：アイスブレーキング「仲間作り」→安心して参加できるためのルール作り→グループワーク（1）「ちがいのちがい」→グループワーク（2）「勉強会の例を対象別（小学生・中・高生・親・成人他）にプログラムを検討」→全体で共有

来場者感想：・一人ひとりの参加者が安心感を持って参加できるためにファシリテーターの役割がとても重要だということがわかりました。・同じテーブルの人と意見を交わすのは楽しかった。・もっと時間がほしかった。

連絡先：横浜エイズ勉強会　〒231-8458横浜市中区常盤町1-7　横浜YMCA NPOサポートセンター内
TEL：045-662-3721　FAX：045-680-5370　E-mail:motomura@yk.rim

No. 30	タイトル：琉球太鼓 主　催：横浜ダルクケアセンター

ねらい:琉球太鼓の練習等を通して薬物依存症者の回復を伝える

来場者感想:とても素敵でした。今後も頑張って下さい。その他多数

連絡先:〒232-0017 横浜市南区宿町2-44　TEL：045-731-8666　横浜ダルクケアセンター

No. 31	タイトル：イラン人ゲイ難民・シェイダさんを救え！ 主　　催：チームＳ・シェイダさん救援グループ

ねらい：同性愛者を死刑に処す刑法を持つイランから日本に逃れてきたイラン人ゲイ、シェイダさん。この企画では、ワークショップを通じて彼の体験、ひいては迫害を受ける少数者のおかれた状況を理解していくことを目指しました。少数者への共感・理解はエイズ問題とも共通するテーマです。

ながれ：まず、「シェイダさんクイズ！」でシェイダさんの半生と、イランという国の文化と近現代史、日本の出入国管理制度の問題をガイダンス。次に「難民すごろく・シェイダさん物語」というゲームを通じてシェイダさんの足どりを追い、シェイダさんや同性愛者難民の状況を追体験。最後に、セッション「あなたが難民になる日」で、難民が直面する問題について実感しました。とかく難民問題や外国人問題については「シェイダさんを難民として認めたら、ゲイを装った難民が増えるのでは」とか「入国当初に難民申請をしていれば良かったのに」といった疑問を抱きがちですが、少しでも難民のおかれた状況を追体験することによって、問題はそんなに単純ではない、ということに気がつくと思います。

来場者感想：

・ちょっと盛りだくさんすぎて、ついていきにくかったです。エイズ問題とのつながりが見えにくかった。
・難民の身になって考える事で、ふだん考えていなかった「難民問題」が身近に感じられるようになった。
・来場者は少なかったが、充実した企画だったと思う。

連絡先：チームＳ・シェイダさん救援グループ
TEL：070-6183-5165（田中）　FAX：03-3550-5139（清水）　E-Mail：shayda@da3.so-net.ne.jp

No. 32	タイトル：私の立場で考えるバリアフリー 主　　催：ソクラテスプロジェクト シンポジスト：滝川明（桜会病院）・竹内良（東京人権啓発企業連絡会）・鈴木康三（藤沢市地域生活支援センター「おあしす」）／進行：逢澤詳子（ソクラテスプロジェクト）

ねらい：参加５年の今年は、皆でこのセッションに託した「暮らしあう力を育む」想いを再確認したい。

ながれ：滝川氏は病院のｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰの立場から「医療を受ける機会の不平等を考える」と題して、医療という社会システムが生み出す差別について発題。次いで竹内氏は企業における人権研修担当の立場から「別と区別」と題して、あってもいい違いといけない違いについて演習を取り入れて発題。最後に鈴木氏は精神障害関係のｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰの立場から「差別・偏見から共生への模索」と題して、予断と偏見の問題を発題。この様な安心して自由に意見表明できる話し合いを継続していくことが共生の要であると確認。

来場者感想：個人々々が独自の辞書を持って言葉を駆使している。この辞書の存在とその違いに気づくことが出来た。（30代男性）

連絡先：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民活動サポートセンター　レターケース109番　ソクラテスプロジェクト

No. 33	タイトル：HIV がくれたもの 主　催：岩室紳也（神奈川県厚木保健所医師）　出　演：北山翔子　&　桜屋伝衛門

ねらい:HIV に感染した理由が違っていても、その後の人生では共通した悩みを持っています。恋愛、結婚、妊娠、出産、という大きな出来事をどう考えているのかをインタビュー方式で2人に聞きました。

ながれ:2 人が感染した経緯（北山さんは恋人からの性感染、桜屋さんは薬害エイズ）が異なっても、その事実を受け入れ、HIV と共に生きる姿勢には共通したものがありました。さらには恋愛観、結婚への期待と夢は同じ。ただ、HIV に感染しているということを含めて理解し合えるパートナーが必要。

来場者感想：HIV に感染したことを乗り越えて、積極的に人生を生きているお二人に感銘しました。感染していない人の方が惰性で生きているかもしれないと反省させられました（50 代、女性、教育関係）。"HIV がくれたもの" という題目に魅かれて拝聴しました。HIV を受け入れ、自分の中に取り込んでしまってこそ「くれた」といえるんだろうなと思いました（20 代、女性、保健医療関係）。保健所で普及啓発をする立場として「誰もが感染する可能性はある、その中でどうすれば良いか」ということについて頭ではわかっていたものの、気持ちがついて行ってなかった気がします（20 代、女性、保健医療関係）。

連絡先：岩室紳也（北山翔子、桜屋伝衛門講演依頼も承ります）
〒243-0004　神奈川県厚木市水引 2-3-1 厚木保健所保健予防課
TEL：046-224-1111　FAX：046-225-4146　E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp

No. 34	タイトル：「AGPからだの相談」の質的検討 主　催：AGP(Association of Gay Professionals：同性愛者専門家会議)

ねらい：AGPでは週に１回、主にゲイ・バイセクシュアル男性を対象に性感染症に関する無料電話相談『AGPからだの相談』を行っている。今回、２年６ヶ月間に当相談に寄せられた405件の相談から、HIV/STDに関連する相談内容についての質的なグループ分けを行い、ゲイ男性が現在HIV/STDについてどのような悩みや問題を抱いているか、そして何が必要とされているかを検討したので報告をした。

発表内容:年齢層は13歳から76歳（平均年齢31.8歳）におよび、感染不安と性感染症に関する相談が57.4%を占めた。カテゴリーは次の4つに大別された。1）現在起こっている具体的な症状・診断・治療に関する相談、2）感染リスクのあるセックス後の感染不安、3）感染予防の具体的知識、4）HIVに関する社会的問題の相談。

今回の相談内容の検討により、ゲイの抱えるHIV/STDに関する身体上の問題とその傾向が観察され、なにが医療に求められているのかというニーズが見えてきたのではないかと考える。さらにこの結果を踏まえて相談を行うことにより、HIV/STD感染予防啓発にむけて、これからも得られた情報を還元していきたい。

参加者感想：AIDS、同性愛に関する相談について興味を持ちました。同性愛者一医療関係者間の関係について面白く聞けた。（20代・男性・保健医療関係）／この講演で、ゲイは差別だけでなく、医療に関する問題も抱えていることを知った。自分のまわりに問題を抱えている人がいたら今日学んだ知識を教えてあげたい。（10代・女性・学生）

連絡先：〒164-0001　東京都中野区中野5-24-16　中野第2コーポ601号　AGP事務局宛
TEL/FAX:03-3319-3203

No. 35　タイトル：エイズと性行為感染
主　催：エイズアクション　　講　師：南　定四郎

ねらい：エイズの感染経路には圧倒的に性行為感染が多い。感染予防の基礎的知識として性行為をうながす欲望について分析的に考察する。とりわけ、社会的存在としての不可視のメッセージに注目することにより、性欲がいかに他者による欲望に掻き立てられているかという現実を明らかにしたい。その上で性器主義を排し、全人格的なふれあいを求めること、機械文明に毒されたまがいものの性から人間本来の性に立ち戻る契機をつかみたい。

ながれ：（1）若年者の性行為経験者は統計的にも増大。（2）理由として「みんながやっているから、遅れてしまう」という告白がある。（3）風俗で働く女性の意識。（4）生産される欲望。（5）バーチャルな世界。（6）芸術としてのセックス。＊論証として街頭写真、商業ディスプレー、エロティックなイメージを訴求する印刷物、写真集からの数カット……等、２０点をＯＨＰにて壁に照射した。

来場者感想：（1）性器主義、他者性、他人の欲望を自分の欲望とはき違える――ちょっとおもしろい視点だった。（2）性とはということに関してとてもわかりやすく、とても大切なことを伝えてもらった気がします。（3）教育的角度からではなく新鮮でした。

連絡先：〒162-0063　東京都新宿区市谷薬王寺70ブラザー若林301　エイズアクション

No. 36　タイトル：セクシュアリティ入門講座2
主　催：ライフ・エイズ・プロジェクト（ＬＡＰ）
講　師：木谷麦子（文筆業、アットマーク・インターハイスクール講師）
司　会：清水茂徳（ＬＡＰ代表）

ねらい：セクシュアリティについて学ぶことは「ものの見方」を学ぶことかもしれない。あるブンガク屋が学生相手に同性愛やトランスジェンダーの話をした経過と学生の反応を通して「セクシュアリティって何？」を考えてみる。

ながれ：1）私的体験と記憶によるこの四半世紀の性教育の歴史
2）とりあえず認識のために分けてみる同性愛、両性愛、異性愛
3）ＧＩＤ（性別不快症候群）　4）原因論は必要か
5）呼び名とアイデンティティ～自分を認識すること
6）アイデンティティとセクシュアリティ

来場者感想：私自身トランスジェンダーの1人ではありますが「私」という個人を語るのにそのこと自体の優先順位はそれほど高いものではなく、最後の方のお話でその点共感が得られたこともうれしく思いました（30代・男性・自由業）　自分の体験とリサーチの上で語られる木谷さんのお話は素直な気持ちで受け取ることができました（30代・女性・ＮＧＯ／ＮＰＯ）

連絡先：ライフ・エイズ・プロジェクト（ＬＡＰ）
〒100-8691　東京中央郵便局私書箱490号　　TEL：03-5685-9716　FAX：03-5685-9703
URL：http://www.lap.jp/　　E-mail：lap@lap.jp.org

No. 37	タイトル：「感染者を交えて語る、未来とその課題」 主　催：ぽーとたまがわ

ねらい：薬の強い副作用、飲む時間や管理などと戦いながら、薬と向き合って行く難しさを昨年このフォーラムで発表いたしました。その後いろいろな反響をいただきまして発表した甲斐があったと強く思いました。今年も感染者の方がスピーチを快く引き受けてくれました。２人が今の暮らしについて何をどの様に捉え、そして今後の生活や未来を考えた時の問題点を語っていただき、多くの人が知らない現状のところを、昨年と同様に参加者の皆さんと話し合い、共有して行こうと考えました。

来場者感想：・とても努力され健康を維持してらっしゃるお二人の話に感動しました。
・感染者の方の体験や状況が生で聞けたので良かったです。
・元気なお姿で再会できたのがとても嬉しかった。
・体験した人でないとわからないが多いと思いました。
・「病気」「仕事」「薬を服用すること」「生活していくこと」の関連を考えさせられた。
・「感染する事は恐いこと」を伝えて欲しいとの言葉も印象的でした。

連絡先：こころのホットライン　毎週木曜日　18時～22時　「ぽーとたまがわ」
TEL：044-900-9180（感染者の方もスタッフで待機しています）

No. 38	タイトル：「英国及び我国におけるNGOとGOの共働」 主　催：特定非営利活動法人　ＨＩＶと人権・情報センター

ねらい:英国で行なわれているNGOとGOの連携を通して日本の現状を把握し、今後のNGO・GOのあり方を考える。

ながれ:厚生省科学研究「エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究」である①英国のＡＩＤＳ/NGO・病院・行政の活動目的や内容と②日本国内のＡＩＤＳ/NGO・行政にたいして行なったアンケート結果についてスライドを使って報告し、日本のNGOとGOの連携について参加者と交流を図った。

参加者感想：
・イギリスでのNGOの活動の活発さと利用者のニーズの高さ、社会における位置付けを知り日本のNGOとの違い（イメージ等）に驚きました。
・とても広い視野に立ったお話でした。これからの若い人たちが国境なく考えていく時に役に立つと思いました。
・イギリスでのＨＩＶについての活動、日本のNGOの活動の中身を知ることができました。考えることが多くあり、仕事や自分自身に生かしていきたいです。
・行政とNGOのかかわりが日本より密であるという感じがしました。行政で働く者としてイギリスの保健局のように柔軟な活動を参考にしたいと思いました。

連絡先：特定非営利活動法人　ＨＩＶと人権・情報センター
〒101-0047　東京都千代田区内神田1-2-2　吉田ビル２階　TEL／FAX：03-5259-0622

No. 39	タイトル：性教育に困っている養護教諭の為のつどい 主　　催：荒井美恵　高橋かん奈

ねらい：性教育に関し日頃困っていることなどを出し合い、今後の教育の方向性を共に考える。
互いに率直な意見を交換する参加型のセッションを通して、すてきな出会いの場としたい。

内　容：上記のようなタイトルにも関わらず、他職種の方や男性の方が大勢参加してくれたことに大変驚いた。それと同時に、現在学校では何が行われているのか、ということについての関心の高さを感じた。参加者一人ひとりが問題意識を持ってこのプログラムに臨んでおり、係から改めて問題提起をするまでもなく、活発に意見交換がなされた。２グループに分かれて話し合いをしたが、はからずも両グループとも、学校はもっと外に向けて「困っているから助けて！」というＳＯＳを発していいんじゃないかという地域との連携がポイントとなるテーマに進んでいった。もっと地域の医療・福祉・行政の機関、ボランティアを利用してほしいとの声に、学校側の閉鎖的な部分の問題を垣間見たような気がした。養護教諭が一人で頑張るのではなく、地域全体を巻き込んで協力を得ながらやっていくことが、結果的に生徒たちを取り巻く環境作りに繋がっていくということを実感しながら集いを終えることができた。また、全国から参加された方々から反対に力をいただいたようで、とても充実した時間を過ごすことができた。

来場者感想：参加者全員が語り合えて良かった／困っているというサインを受けとめてくれるネットワークに出会えて良かった／様々な立場の現場の声を聞けてためになった／また頑張る意欲がわいてきた／「困っている」というのがポイントでしたね

連絡先：高橋かん奈　〒273-0121　鎌ヶ谷市初富 284-7　千葉県立鎌ヶ谷西高等学校　TEL：047-446-0051

No. 40	タイトル：女性用コンドームをどのように伝えていくか（使用方法のコツとデメリットの克服） 主　　催：大鵬薬品工業株式会社　　講　　師：桜井昌子

ねらい:女性用コンドームの使用方法を参加者に覚えてもらう。また、発売後１年間の間に寄せられた「大きい」「外観が悪い」などの消費者からの意見を検証し、逆に「この形だからこそ実現できるメリット」を提示して、意識改革をはかる。

ながれ：1.日本における中絶、性感染症の実態をデータを示して解説
2.参加者全員で女性用コンドームの実物を使って、使用方法を練習
3.デメリットと思われる点が、実はメリットであることを解説

来場者感想：
・多くの女性に聞いてほしい。自分の体のことは自分で知っておかなければと感じた。（10代・女性）
・女性が受け身ではなく、積極的に避妊できる、SEXを楽しめるものだと思った。（20代・女性）
・使い方を知らなかったが、思ったより簡単。使ってみようと思う。（20代・女性）
・実物を見てちょっとびっくりしたけど、これからどんどん普及していけばよい。（20代・女性）
・STD予防の観点からもよいと思った。（30代・女性）
・女性用コンドームを啓発してゆくためのポイントがあまり聞けなく、私の目的には合わなかった。しかし、聴衆は若い女性が主で、合っていたと思う。（30代・男性）
・非常にわかりやすい説明だった。実際に触ってみてよくわかった。（20代・女性）

連絡先：大鵬薬品工業株式会社　MFプロジェクト　桜井昌子
TEL：03-3294-4527（代表）　　〒101-8444　千代田区神田錦町 1-27

No. 41　タイトル：総合学習でエイズを子どもたちはどう学んだか
主　　催："人間と性" 教育研究協議会かながわサークル

ねらい:性やからだの学習・エイズ学習の内容や実践について交流したい。

内容：６年生の子どもたちが「エイズ」をテーマに選び総合学習で５０時間学んだ経過を報告した。エイズを選んだ動機を丁寧に掘り起こし、動機にフィードバックさせながら学習課題を深める支援に報告者が感じた戸惑いや子どもたちの学習の軌跡を報告した。

学習の経過の中で、子どもたちがエイズを自分とのかかわりに関連させて、学習していくことの必要を感じた。自分が体験した病気について「病原体・感染経路・治療・周りの人の看病」などについて調べまとめた。次に「血液、免疫、粘膜、月経、射精、ふれあいの性交、性の多様性」などについて学習した後、エイズについてまとめた。当日は、「エイズについて知る」の模擬授業を行った。

来場者感想：学校でエイズを血液や母子感染だけで教えている結果が、街頭アンケートなどに現れている。性感染症としてのエイズをしっかり教えて欲しい。（膣分泌液、精液が感染源ということを若者が知らない）

連絡先：〒247-0063　鎌倉市梶原1-8-2　鎌田美代子　TEL：0467-44-5185

No. 42　タイトル：ヘテロとゲイの同性生活エイズについて
主　　催：サークル ホン　　講　　師：洪 久夫& 野中 大輔

ねらい：ヘテロと同性してた自分がどんなになったのか、トーク＆トークで行いました。

ながれ：ＨＩＶ感染者としてどのようにいっしょに生活を共にしてきたのかなど。

来場者感想：知らない世界を知りました。ホンさんの将来の自己管理を心から祈っています。（４０代 女性 保健医療関係）／だいちゃんは、ＨＩＶの事をよく知らないしとの会話でしたが、正しい事を知っておられたと思います。私は自分の情報を自分のものとしたいと思います。（４０代女性）

連絡先：代表 洪 久夫（ホン ヒサオ）
〒164-0021東京都中野区本町6-17-12 フローラ新中野202
TEL：03-3384-0549　（ＦＡＸ無し）　携帯:090-2912-0752（非通知不可）

No. 43　タイトル：PHAの法律問題と人権救済制度
主　　催：特定非営利活動法人　動くゲイとレズビアンの会

ねらい：当会では、昨年から「ＰＨＡリーガル相談」という電話相談ラインを開始し、法律、医療や福祉を始めとするいろいろなトラブルについて相談にのっています。本発表では、こうした活動の中から、ＰＨＡがかかえる人権問題の現状について分析するとともに、政府が現在計画している、新しい人権救済制度（人権委員会）の設立とＰＨＡの人権問題とのかかわりについて解説しました。

来場者感想：人権審議会の件はほとんど注目していなかった。貴重な話が聞けて良かったと思います。（20代、男性）／人権救済制度、出来てからどれだけ利用できるかが勝負ですね。がんばりましょう。（40代、女性）

連絡先：特定非営利活動法人　動くゲイとレズビアンの会
TEL：03-3383-5556　FAX：03-3229-7880　E-mail：occur@kt.rim.or.jp

No. 44	タイトル：学校における感染者によるエイズ教育の効果 主　　催：せかんどかみんぐあうと

ねらい：当会の行っている感染者が直接に聴衆に語りかける講演によるエイズ教育活動と、その講演の前後にとったアンケートの分析結果を紹介した。特に学生に向けた取り組みを紹介し、感染者がおこなうエイズ教育の効果と必要性、エイズ教育に感染者が果たす役割を考える。

ながれ：1．講演活動についての支援・解説
2．アンケート調査の分析結果の紹介
3．質疑・討議

来場者感想：とてもわかりやすい内容と話し方で勉強になった。／どんなエイズ関連の本を読むよりも説得力があったし、自分の中に受け入れられる情報であった。／今後高校生に向けてHIV教育をしていく予定なのでとても参考になった。／学校では教えてもらえないようなことを教わった気がする。

連絡先：〒164-0012　東京都中野区本町6-12-11 石川ビル2階　せかんどかみんぐあうと
TEL：03-5385-0542　FAX：03-3229-7884

No. 45	タイトル：DRUG&AIDS（菅原監督と語る会） 主　　催：社団法人神奈川県青少年協会

ねらい:映画「DRUG」の菅原監督を講師に迎え、この映画を製作するために、薬物乱用の実態を幅広く取材して明らかになった青少年の驚くべき実態を熱く語っていただいた。

ながれ：①映画「DRUG」への思い　②取材時のこぼれ話等

来場者感想：・一人でも多くの人（親と子ども）に映画を見てもらいたい。（神奈川県・50代女性・主婦）
・映画作成にあたって非常に勉強されていることに驚いた。（神奈川県・40代女性・教育関係）

連絡先：社団法人神奈川県青少年協会　〒222-0024　横浜市港北区篠原台町6-16
TEL：045-402-0346　FAX：045-402-0362　E-mail:kya@netpro.ne.jp

展示プログラム

特定非営利活動法人　ＡＩＤＳ＆Ｓｏｃｉｅｔｙ研究会議

本研究会議の活動内容をパネルで紹介し、また、6月25日から3日間、ニューヨークで開催された『国連エイズ特別総会』のポスターや、UNAIDSが作成した世界のエイズの状況を表した3つの世界地図を展示・紹介した。テーブルでは、ニュースレターのバックナンバーを配布したり、エイズNGOやエイズ拠点病院の情報誌、関連書籍・CDを販売した。また『国連エイズ特別総会』を取材した産経新聞の宮田一雄記者が会場でかき集めた膨大な資料・文献が提供され、皆さんに展示・紹介された。これらの資料・文献をご覧になりたい方は、本研究会議事務局へご連絡ください。

連絡先　〒162-0045　東京都新宿区馬場下町60まんしょん早稲田401　TEL&FAX:03-3200-0399

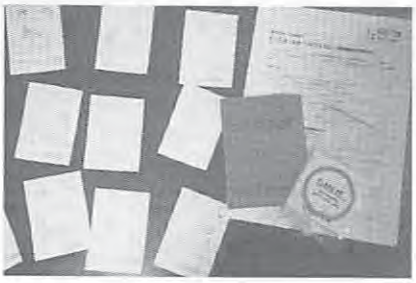
横浜ＡＩＤＳ市民活動センター

活動センターのPRと、オリジナルコンドームケース「オーケース」の展示・配布を行いました。
（「オーケース」はHIV予防に有効なコンドームを若い人たちに携帯してもらおうと、センターで企画・作成した啓発物です。）
横浜AIDS市民活動センターとは・・・地域や学校、職場等でのエイズへの取り組みを支援するため、平成7年7月横浜市中区に開設され、AIDSに関する情報の収集・提供やボランティア活動のサポートを行っています。活動センターには情報スペース（エイズに関する資料・書籍・ビデオ・関連グッズなどを多数そろえて閲覧及び貸し出しを行う）、作業スペース（印刷機や紙折器などを自由に使うことができる）、ミーティングルームなどがあります。皆さんのご利用をお待ちしております。

連絡先　〒231-0045　横浜市中区伊勢佐木町2-66　満利屋ビル8階
TEL:045-262-8881　FAX:045-262-8882
開館時間：平日（月曜休館）13:00～20:00　土日祝祭日13:00～17:00

ライフ・エイズ・プロジェクト（ＬＡＰ）

ＬＡＰはＰＨＡ（ＨＩＶ感染者・患者）のためのサポートグループとして1993年2月に発足したＮＧＯです。今回の展示ではＨＩＶに関する最新情報やＰＨＡのための生活情報などを満載したＬＡＰニュースレターの無料配付・販売、各種資料の配付を行いました。またセーファーセックスの普及・啓発のために性行為の描かれたカードをＨＩＶ感染のリスクが高いものから低いものへと順に並べかえる「リスク・スケールづくり」の実習を希望者に実施しました。



連絡先　ライフ・エイズ・プロジェクト（ＬＡＰ）
〒100-8691　東京中央郵便局私書箱490号　TEL:03-5685-9716　FAX:03-5685-9703
URL: http://www.lap.jp/　E-mail: lap@lapjp.org

ＪＡＰＡＮｅｔｗｏｒｋ

英語のレッスンプラン、ニュースレター、ビデオを紹介
英語のポスターの展示

連絡先　〒470-0125 愛知県日進市赤池１丁目 1509 番地　ラ・メゾン赤池 403
TEL/FAX:052-806-5534　E-mail: aidsed@gol.com

大鵬薬品工業株式会社

女性用コンドームの使用方法説明および販売。医療教材の女性生殖器模型を使用して、女性用コンドームの使用方法を説明。昨年にひきつづき、「模型があるとわかりやすい」との声をたくさんいただきました。しかし、発売後１年以上経過しているのに、初めて見た人がまだまだ多い現実を実感。印刷物は、性感染症、避妊情報誌、セイファーセックスをテーマにしたものなどを用意。中でも「学園祭を応援します!!」のチラシは教育関係者の注意をひきました。販売では、彼と彼女が出会うラブラブウォッチやボールペンなど、盛りだくさんのオリジナル景品につられて、女性用コンドームを買ってくださった方も。「お買いあげ有り難うございました!!」使うほどに良さがわかるのが女性用コンドーム「マイフェミィ」。感想は１回目と５回目では違うはず…3 回目ではどうかな? 初めての人もまずは試してみて。ねっ、以外と簡単でしょ。

連絡先　〒101-8444 千代田区神田錦町 1-27　大鵬薬品工業株式会社
MF プロジェクト　桜井昌子　TEL:03-3294-4527（代表）

ＡＩＤＳねっとさがみ

桜まつりでのメッセージのついた桜の木の展示および
「レッドリボンで桜の花を満開にしよう」キャンペーン実施。

連絡先　ＹＭＣＡ相模大野ステーション　〒228-0803 相模原市相模大野 3-16-15 相模大野スカイビル３Ｆ
TEL:042-740-5501　FAX:042-740-5503

ＡＩＤＳネットワーク横浜

「HIV・エイズ２０年の経過を示すグラフ（UNAIDS）」
「AIDS ネットワーク横浜のパンフレット」（活動状況を紹介）
「HIV 検査に対する意識調査」（感染者が増加するのに検査を受ける人が増加しないのは何故か？検査を受けやすい体制は？等を調査）
「知ってる？エイズのこと」（エイズ教育は大人になってからでは遅すぎると痛感されることから子供を対象に HIV 感染をわかりやすく解説）「コンドームの正しい使い方」

連絡先　〒231-0045　横浜市中区伊勢佐木町 2-66　満利屋ビル８階　横浜 AIDS 市民活動ｾﾝﾀｰ内
AIDS ネットワーク横浜　　TEL:045-262-8811　FAX:045-262-8811
E-Mail: any@netpro.ne.jp　　URL:　http://www.netpro.ne.jp/~any/

性と健康を考える女性専門家の会

ひとりひとりの女性が満足できる女性医療とは何か…医療・保健システムに女性の視点を生かし、男女ともに生き生きと幸福に暮らせる社会を作りたい－私たちの会は、同じ思いを持つ医療者・学者・教師・ジャーナリストなどにより１９９７年に設立されました。

性感染症、避妊、女性医療に関する書籍、会で作成した「ピル」と「性感染症」のパンフレットの配布、会の活動紹介、今年制作した「避妊」ビデオの上映などを行いました。

今回始めて AIDS フォーラムに参加させて戴きましたが、学生の参加も多く、新しい人との出会いがあり、いろいろ話をする機会が得られました。今後の活動に生かしていければと思いました。

連絡先　〒104-0045 東京都中央区築地 1-9-4 ちとせビル 3F
TEL:03-5565-3588　FAX:03-5565-4914　URL: http://square.umin.ac.jp/pwcsh/

ＹＭＣＡ　ＡＣＴ

展示内容　地域活動プログラムの紹介

ＹＭＣＡは世界１２２の国と地域で、平和で公正な社会実現のために活動をしている社会教育団体です。横浜ＹＭＣＡは神奈川県内に１８カ所の活動拠点を持っていますがそのひとつ、ＹＭＣＡ　ＡＣＴ（アクト）では、ＹＭＣＡの活動を、講演や体験学習（ワークショップ）を通して紹介しています。たとえば……ＡＩＤＳについて考えるプログラム、バリアフリー、異文化交流、伝統文化（墨絵）体験、国際協力活動（対人地雷・ミャンマーの医療支援・タイの児童保護プロジェクト等）、災害支援活動…

もし興味をもった活動があれば、お気軽にお問い合せください。

連絡先　〒221-0835　横浜市神奈川区鶴屋町 2-25-1　TEL:045-316-1881　FAX:045-314-6805

かながわレッドリボンプラザ

かながわレッドリボンプラザは神奈川県から委託され、HIV/AIDSに関する講座の運営、情報提供、ニュースレターの発行を行っています。今回は、かながわエイズボランティア育成講座の様子やひらつか七夕まつり会場内エイズ予防財団のブースでのエイズ予防啓発活動の写真を展示しました。また、5月と7月に発行されたニュースレターの配布も行いました。

連絡先　横浜ＹＭＣＡ　〒231-8458　横浜市中区常盤町1-7　NPOｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ内
TEL:045-662-3721　　FAX:045-651-0169

特定非営利活動法人　動くゲイとレズビアンの会

当会のエイズ活動における各種電話相談サービス、予防啓発キャンペーン、ゲイのための便利帳シリーズなどについて具体的にご紹介しました。

連絡先　特定非営利活動法人　動くゲイとレズビアンの会
〒164-0012　東京都中野区本町6-12-11 石川ビル2F
TEL:03-3383-5556　　FAX:03-3229-7880

“人間と性”教育研究協議会かながわサークル

性教協かながわサークルは、性教育やセクシュアリティについて研究・実践している団体です。
今回の展示は、日頃会員が行っている性教育やエイズ学習の教材や教具、パネルなどを展示しました。また昨年、横浜女性協会の助成事業をうけて行った講演会・ワークショップの報告書を展示し希望者にお分けしました。

連絡先　〒247-0063　鎌倉市梶原1-8-2　鎌田美代子　TEL:0467-44-5185

横浜エイズ勉強会

手作り性教育グッズに「性教育カルタ」が仲間入りします。
今回の展示はこのカルタを中心に、性教育布絵本パネル、高校生によるワークショップ体験報告を展示しました。
横浜エイズ勉強会ではこうした手作り性教育グッズを使った体験的学習の出張講座を行っています。

連絡先　横浜エイズ勉強会　　〒231-8458　横浜市中区常盤町1-7　横浜YMCA　NPOサポートセンター内
TEL:045-662-3721　FAX:045-680-5370　　E-mail: motomura@yk.rim.or.jp

神奈川県立有馬高校保健委員会

県立有馬高校保健委員会は、エイズに視点を向けた活動を‘９５念に立ち上げ、以来先輩から後輩に活動を継承しています。文化祭に向け全校生徒を対象に「エイズに関する意識や関心、性行動の実態や認識」を調査し「エイズや性」のことを身近な問題として伝えたり、布を集め一針一針縫い合わせて作るお布団＝「ABC キルト」を作成し世界のエイズの赤ちゃんに贈る活動を支援したり、使用済みテレホンカードや切手などを集め、中央アフリカの医療や予防活動を援助する活動を続けています。これら日頃の啓発活動の様子と文化祭の風景を写真で展示しました。

連絡先　〒243-0424　神奈川県海老名市社家 240 番地　神奈川県立有馬高等学校保健委員会
顧問　下嶋歌子　　TEL:046-238-1333　　FAX:046-238-7980

神奈川県衛生部保健予防課

普段あまり訪れることの少ない保健所（保健福祉事務所）を、もっと身近に感じてもらえる様に保健所保健婦がパンフレットや「エイズの感染者数」・「保健所一覧表」のパネルを基に気軽に相談をうけました。「今、エイズ患者は何人位いるの？」、「保健所の検査はどうやって受けるの？」等皆さんからの質問や「授業で生徒に配るパンフレットがほしいの」等の要望に答えました。

連絡先　〒231-8588（住所表記不要）神奈川県衛生部保健予防課エイズ・感染症対策班
横浜市中区日本大通１ TEL:045-210-5117　FAX:045-210-8863

ＥＣＰＡＴ／ストップ子ども買春の会

紹介・展示内容：ストップ子ども買春の会は 1992 年に発足し、現在国際 ECPAT(End Child Prostitution, Child Pornography And Trafficking in Children for Sexual Purposes) の公式関連団体として活動しています。会では、「子どもの権利条約」第 34 条に基づき、子どもの買春、子どもポルノ、性目的の人身売買の根絶を目指して、国会や省庁へのロビー活動、子どもポルノの実態調査、講演会、学習会、本や資料の翻訳、出版、学生を対象としたユースフォーラムの開催、ニュースレターの発行などの活動を行っています。AIDS という切り口からもこの問題を知っていただこうと、1998 年から AIDS 文化フォーラムへ参加しています。今回は、本会のユースグループαの活動を中心に、展示にて活動紹介をさせていただきました。

連絡先　〒169-0073　東京都新宿区百人町 2-23-25　矯風会第２会館内
TEL:03-5338-3226　　FAX:03-5338-3227　URL: http://www.ecpatstop.org

社団法人神奈川県青少年協会

展示内容：ＤＲＵＧ関係パネル

青少年協会会員、増井秀昭氏作成によるＤＲＵＧ（ドラッグ）の種類、分類、その投与方法などをわかりやすくパネルで解説。

連絡先　社団法人神奈川県青少年協会　〒222-0024　横浜市港北区篠原台町6-16
TEL：045-402-0346　FAX：045-402-0362　E-mail: kya@netpro.ne.jp

性を語る会・アーニ出版

代表の北沢杏子が国連人口基金などの要請で、チュニジア共和国やラオス共和国でおこなった性教育とエイズ予防教育の模様をパネルで展示。国境を越えて活動する性教育実践者・北沢杏子と、言葉も宗教も越えて活用されるアーニの性教育・エイズ教育教材を紹介しました。また、エイズ関連書籍ほか、「性を語る会」機関誌、レッドリボングッズの販売をしました。毎年この場は、情報交換のための貴重なスペースとなっております。

今後ともより良い協力関係を、よろしくお願いします。

連絡先　〒158-0092 東京都世田谷区用賀3-5-6
アーニ出版　TEL :03-3708-7321　URL : http://www.ahni.co.jp

実行委員会特別プログラム

ーバリアについて考えるー

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜　実行委員会
出演：成田真由美（パラリンピック金メダリスト）　桜屋伝衛門（HIV感染者）
司会：岩室紳也　（厚木保健所医師）

ねらい

彼らにとってのバリアとは何であろう？　パラリンピック競泳金メダリスト成田真由美さん、HIV感染者、桜屋伝衛門さん「目に見える障害者（身体障害）」「目に見えない障害（免疫障害）」2人の違ったタイプの障害と共に生きる方をゲストにお招きし、多角的に障害について考えていこうと思います。

なお、この講演の模様は距離的バリアを無くす為にブロードバンドで生中継されました。また、オンデマンドでも24時間、365日見る事が出来ます。 http://www.i-aids.org/

～講演テーマ～

・健常者って何？障害者って何？
・四肢障害と免疫障害の違いを考えてみよう。
・成田さんの新婚生活って？？？
・障害ってみんなにあるもの？
・生活のしづらさ（就職・恋愛etc）
・障害と共に生きて感じること

来客者感想

・2人とも明るい事が衝撃。桜屋さんの言葉「カッコイイ障害者になる事を目指している」に拍手！（20代学生）
・自分が悩んでいる事はちっぽけだと思った。ハンデを持って生きる人に感銘を受けました。オレも頑張るぞ！（10代　学生）
・障害の苦しみがよくわかった。学校でこの思いを伝えたい。（10代　学生）
・障害の中でも見える障害、見えない障害があって、それぞれの立場から話が聞けて良かったです。（20代　保健医療関係）
・健常者である私自身がバリアを除く事。障害を受容するプロセス、その中で行政の役割は何か考えさせられた。（40代　保健医療関係）
・エイズと少し離れたテーマでしたが、すごく入りやすかったです。（30代　保健医療関係）
・物的バリア以上に心のバリアの存在が大きいと思います。その点についてももっと話し合って欲しかったです。バリアを持つ心を取り払う教育が必要だと思います。（50代　その他）
・障害も個性であると2人の話を聞いて思いました。（50代　保健医療関係）
・しょうがいしゃの気持ちがわかってよかった。金メダリストの成田さんに会えてよかった（10代　学生）

企画者感想

成田さんが「えっ！桜屋さんは障害者手帳2級なんですか？私の知り合いの2級っていったら、、、。」この言葉が象徴的です。

ここ数年のHIV/AIDS治療薬の進歩は目覚ましい事は周知の所だと思います。そしてHIV感染は「特別な障害」でなくなりつつあります。しかしながら、人間として生きていく以上、恋愛・就職・結婚・出産など障害を持っていると煩わしい問題が表面化します。

でもそれは、障害を持っている自分以外の人の理解が不足しているのでは？と彼らの話を聞いていると考えさせられました。

車椅子の乗車拒否をするタクシー、鍵がかかっていて、わざわざ人の手を煩わせなければ使えない車椅子用のトイレ、依然HIV感染者AIDS患者の診療を嫌がる医療機関、HIV感染を隠さないと就職が不利になる

現実。
　もちろん、これが全てでは無く多少なりとも現状が認知され良い状況になっていると思いますが、嫌な思いをしている障害者が少しでもいる事実を知る事が最も重要な事だと思います。いずれは、自分も何らかの障害者になり、何らかのバリアができると言う発想の転換こそが障害者に対して私達の「バリア」を少しで軽減できる一助になればと思いますし、情報を提供する側の責務だと思います。ハードでもソフトでも人が作り出している。人の心が作り出しているのです。
　そして、私自身、感染症でも先天性でも後天性でも「あっそうなんだ」位に考えられるようになって、また、将来障害を持ったとしても自分が考えている以上に周りの人にオーバーなリアクションをとってもらいたくないなぁ。なんて思いながら日々年をとって、人生と言う階段を登っていくのです。

ボランティア記者記事
　小学生らしき５人の男の子が中央の一番前の席に座っている。８月３日～５日の３日間、横浜のかながわ県民センターにて２００１年　AIDS文化フォーラムが開催された。関係者が多いこのフォーラムで、小学生の存在が目立っているはきっとこの講演だけだったにちがいない。
　「バリアについて考える」神奈川県立厚木病院の岩室紳也医師の司会により、和やかなムードの中、講演が始まった。
　まずは岩室さんの紹介で、一人の男性が入場。背が高く、がっちりとした体格。茶髪にやわらかなウェーブのかかった髪。どう見ても今時の２０代の男性である。彼の名は、桜屋伝衛門。非加熱製剤によりHIVウィルスに感染してしまったHIV感染者である。
　もう一人の講演者は女性だ。それも、黒地に花柄のワンピースを身にまとい、パールのイヤリングをした、とても上品な感じの女性。が、それとは対照的に颯爽と車いすに乗っての登場。この方が、パラリンピック金メダリストの成田真由美さん。こうして岩室医師進行のもと、「バリアについて考える」についてのトークが始まった。
　この二人に共通していること。それは「障害者」であることだ。障害は身体障害だけではなく、身体の内部疾患に関しても障害にはいる。そのため、桜屋さんの場合は「見えない障害」であり、成田さんは「見える障害」である。つまり、障害をもっている以上は日常生活を送る上で当然、苦労もあるわけだ。
　桜屋さんの場合、それは薬について聞かれることだ。現在のところ、ＨＩＶの治療法では数種類の薬を決められた時間に必ず飲まなければならないというカクテル療法が行われている。そのため、薬を飲む際に、人から「何の薬を飲んでるの？」と聞かれるその時に、自分の病名を告げるべきかどうか、その薬について、なんて説明すればよいのかなど考えてしまうことに苦労するようだ。成田さんの場合は、駐車場の車いす用の駐車スペースにポールがたっていたり、駅の車いす用のトイレに鍵がかかっていて使えなかったりすることに苦労している。その上、一人で電車に乗る際に、駅員に「車いすなので階段をお願いできますか」と声をかけても、すぐに応じてもらえず、数十分も待たされたあげく、「なんで一人で電車に乗るんだ？」、「なんで忙しい時間にくるんだ？」などと言われる苦労もある。
　だからといって、この二人は、障害者である自分に落ち込んだり、悲観的になっているわけではない。
　成田さんは現在、日本テレビ内にある審査室考査部で仕事をしているし、桜屋さんも自宅が自営業であるために、その仕事をしている。それに、障害を持っていても結婚はできる。現に、成田さんは、今年の５月に結婚したばかりだ。
　障害をもっていても仕事もできるし、当然恋愛だってできる。その上「障害」を持っているからこそ得られたこともある。それは、こういった講演を通してたくさんの人々に出会えたことだと桜屋さんも成田さんも述べている。
　その一方、桜屋さんや成田さんのように前向きに生きることのできない障害を持った人々がいる。障害を持ってしまったからこそ、希望の仕事に就けない人もいる。成田さん自身、今の仕事に就けたことを「ラッキーだった」と言っている。
　今の日本はまだまだ「バリア」がある。「バリア」とは障害者のための設備環境が整っていないということではなく、人々が障害者の身になって考えていないことから生まれるものなもかもしれない。
　自分も障害者になるかもしれない。これが「バリア」を軽減し、誰もが住みやすい環境を整えるための最初の一歩になるのではないか。
　最後に、成田さんから一言。「障害を特別なものだと考えてほしくないです。」

インターネットによる情報提供に関する新しい試み

目標～コストパフォーマンスに優れ幅広くスピーディーな情報提供～

・オフィシャルサイト

http://www.yokohamaymca.org/AIDS/

実行委員会の新たな試みとして、オフィシャルサイト（ホームページ）の機能を見直し、リデザインを行いました。

過去、毎年のAIDS文化フォーラムin横浜でもホームページを利用した情報発信は行っておりましたので、ホームページの制作自体に新しさはありませんが、昨年までのホームページを見直した上で情報を分類し、デザインを一新することで、閲覧者に対してより効果的な情報提供を行い、来場者数の増加につなげることをねらいといたしました。

実行委員有志及びCAI(Campus AIDS Interface)がサイトの設計・構築を行い、制作はWebデザイナーを起用いたしました。

計画当初はオリジナルドメインの取得も検討いたしましたが、ドメインとサーバの維持・管理費用が発生するため、予算の関係で見送りとなりました。

また、団体の参加申し込みをホームページからも受付できるプログラムの制作も検討いたしましたが、予算の関係で見送りとなりました。

制作：CAI(Campus AIDS Interface)
運営：AIDS文化フォーラムin横浜 事務局

・ブロードバンド中継

実行委員会企画講座「バリアについて考える」をインターネットを利用した生中継（ブロードバンド中継）を行い、講演会テーマのごとく距離的バリアを無くし自宅のパソコンからでも講演会の模様が御覧になれるシステムを構築しました。また、オンデマンドで365日24時間、御覧いただけます。

ブロードバンド中継を行う事により、既存の「行かなければ見れないシステム」から、「自宅にいても情報が得られる」新しい講演会のシステムを提示したと考えてい

ます。
技術協力：CAI(Campus AIDS Interface)
http://www.i-aids.org/

・ボランティア記者

毎年、AIDS文化フォーラムin横浜参加者からは「同時間帯に行われる講演会が気になるが、重複している為に見られない」との意見が多数聞かれました。それを少しでも解消すべく、一般のボランティアを現役新聞記者（読売新聞、青柳博氏）の講習会を受けて頂きボランティア記者として取材、執筆して頂き、それをメールで会場に来て頂いた希望者へ配信するシステム（AIDS 文化フォーラム DIRECT NEWS）を構築致しました。今年は4講座の記事を配信致しました。

企画：CAI(Campus AIDS Interface)
運営：AIDS文化フォーラムin横浜 事務局
http://www.i-aids.org/

・AIDS 文化フォーラム DIRECT NEWS

今やAIDS文化フォーラムin横浜は重要なHIV/AIDSの情報享受の場になっています。しかしながら、短編的な情報享受の場でしかありません。そこで、まぐまぐを利用したインターネットメールを用いて、恒久的に情報享受を行えるシステムを構築致しました。

まず、各講演の最後に配付される入場者アンケートの欄に、今後もHIV/AIDS情報を御希望される方はメールアドレスを記入して下さいと表記し、ボランティアネット記者が執筆した記事、各参加団体の講演会や勉強会情報、HIV/AIDSに関する情報を提供して行きます。

来年以降のAIDS文化フォーラムin横浜の情報提供も、これを利用し行います。

企画：CAI(Campus AIDS Interface)
運営：AIDS文化フォーラムin横浜 事務局
http://www.i-aids.org/

関連プログラム

■ かわさきエイズボランティア育成講座 ■

1.　スケジュール

第1回　2001年7月21日(土)13:00-17:00　ボランティアを理解する/AIDSの基礎知識

第2回　7月28日(土)13:00-17:00　患者・感染の思い/ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ

第3回　8月3日～5日いずれか　フィールドワーク「AIDS 文化フォーラム in 横浜」

第4回　8月18日(土)13:00-17:00　ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞﾏｲﾝﾄﾞの実際/同性愛と異性愛

第5回　8月31日(土)13:00-17:00　エイズボランティアの実際

2.　会場　川崎市健康・検診センター及びかながわ県民センター

■ かながわエイズボランティア育成講座 ■

1.　スケジュール

第1回　２００１年７月17日　(土)10:00-12:00　エイズボランティアの実際1

第2回　7月21日　(土)10:00-12:00　エイズボランティアの実際2

第3回　7月25日　(水)19:00-21:00　エイズ基礎知識・ﾌｫｰﾗﾑｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ

7月29日　(日)10:00-12:00　エイズ基礎知識・ﾌｫｰﾗﾑｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ

第4回　8月3日～5日　9:00-19:00　フィールドワーク「AIDS 文化フォーラム in 横浜」

第5回　9月1日　(土)10:00-12:00　講座のまとめ

2. 会場:横浜 YMCA 会議室及びかながわ県民センター

ボランティアについて

■ ボランティアに支えられたフォーラム

AIDS 文化フォーラム開催中の会場運営・整理などの役割を全てボランティアが担っています。毎回、小学生からご年配の方々がボランティアとして、このフォーラムの会場運営に力を貸してくださいます。ボランティアの内容は多種多様。興味や関心に合ったものを選ぶ事ができます。今年は、講座ボランティア・総合受付ボランティア・撮影ボランティア・パソコンボランティア・ボランティア記者などがありました。また、過去のフォーラムボランティア経験者がチーフボランティアとして講座ボランティアをまとめ、講座のスムーズな会場運営を実施しました。

■ボランティアオリエンテーションは大切

このフォーラムでは、事前にオリエンテーションを行います。まず、医師によるエイズ基礎知識についてのレクチャーがありました。その後、フォーラムの特徴や歴史、ボランティアマニュアルの説明を受け、当日一緒に活動するグループに分かれて自己紹介をする時間を持ちました。最後は、グループで館内ツアーを行い、会場の場所や建物の重要な場所の確認を行いました。

■ボランティア　～会場ボランティアの感想～

・めちゃみんなと協力してがんばった。
・参加者（ボランティア含む）が協力して充実した時間を過ごせた。
・講演者と会場の人が一緒に話せる場面があったり、こじんまりと具体的な話が聞けて、とても良かった。
・内容について事前にレクチャーがあると、入り口で迷っている方に勧めやすいと思った。
・教室内にもプログラムがあるといい。

新聞等への掲載記事

神奈川新聞
2001年（平成13年）8月2日　木曜日

共生社会の筋道探る

AIDS文化フォーラム　金メダリストも登場

あすから横浜

エイズに関する知識を深めて偏見をなくし、共生社会の実現を目指していく総合イベント「2001AIDS文化フォーラムin横浜」が三日、横浜駅西口の「かながわ県民センター」で始まる。五日までの三日間に五十四の講演会、展示などを開催。四日午後四時からはパラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIV感染者で作家の桜屋伝衛門さんが「バリアについて考える」をテーマに対談する。

フォーラムは横浜YMCAや横浜商工会議所などの有志で組織する実行委員会の主催、県の共催。横浜市などのほか県教育委員会も初めて後援に加わった。一九九四年八月に横浜で開かれた国際エイズ会議を機に「市民版会議」として始まった。以来、毎年同時期に開かれ今回で八回目。毎回約三千人が参加している。

今回のテーマは「バリア」。エイズやHIVを通して社会に根強く残るバリア（排除の思想など）を検証。偏見や誤った知識を正すとともに、共生社会への筋道も考えていく。

性教育の手法を教育者にアドバイスしている教育専門家・北沢杏子さんが公開授業（三日午後一時）、コンドーム普及などを通してエイズ問題に取り組んできた県厚木保健所医師の岩室紳也さんが公開講座（四日午後一時）を開催。

若者の参加を求めていく狙いから学校教育にスポットをあてたプログラムが多くなっているという。エイズの知識と理解を深める新聞広告作りをするワークショップ（三日午後一時）などユニークな企画も目立つ。

入場無料。問い合わせは横浜YMCA内のフォーラム事務局☎045(662)3721。

このほかの主なプログラムは次の通り。

【3日】開会式（午後零時15分）▽タイにおけるYMCAのエイズへの取り組み報告会（午後4時。4日午後1時にも開催）

【4日】HIVの知識普及に向けた学校や地域で役立つ朗読ワークショップ（午前10時）▽エイズの正しい知識や予防教育徹底を目指すセイファーセックス講座（午後1時）▽子どもと共に学ぶエイズと性教育（午後1時）▽国連エイズ特別総会報告（午後4時）

【5日】▽感染者をまじえて語る「未来と課題」（午前10時）▽医師が語るエイズ基礎知識（午後1時）▽学校における感染者によるエイズ教育の効果（午後1時）▽全体討論会と閉会式（午後3時15分）

（報道部・有吉　緑）

エイズ・フォーラム

「バリア」テーマに

市民自らがエイズ問題を考える「2001AIDS文化フォーラムin横浜」が3～5日、横浜市のかながわ県民センター（JR横浜駅）で開かれる。

エイズ問題に取り組む市民団体や個人の活動報告、情報交換の場として毎年開催。8回目の今年は「バリア」がテーマ。パラリンピックの水泳金メダリスト、成田真由美さんとHIV感染者桜屋伝衛門さんが「バリアについて考える」と題して講演。学校でのエイズ教育、海外事情、医師や保健婦による診療の現状などを紹介する分科会がある。

入場無料。問い合わせは事務局（045・662・3721）。

2001年(平成13年)8月2日　木曜日
朝日新聞

AIDS文化フォーラムを開催

3―5日まで 県民センター

バリアをテーマに意見交換
教育現場の取り組みを紹介

35団体が集まり 多彩な発表続々

エイズや、HIV感染の予防や啓発について話し合い、情報や意見を交換しようという「AIDS文化フォーラムin横浜」が、3日から5日まで横浜市神奈川区のかながわ県民センターで開かれる。パラリンピック競泳の金メダリストの成田真由美さんとHIV感染者が「バリアについて考える」と題して対談したり、医療関係者や感染者が教育現場での取り組みを報告したりする。

厚生労働省のまとめでは、エイズ患者やHIV感染者はいまも増え続けている。半面、社会の関心は一時に比べて低くなっており、関係者は危機感を募らせている。フォーラムには、全国から35の団体が集まり、多彩なプログラムが予定されている。すべて無料。

94年の横浜国際エイズ会議をきっかけに毎年開かれ、今年で8回目になる。成田さんは4日午後4時から、HIV感染者の桜屋伝衛門さん（仮名）と対談する。身体障害、HIV感染という異なるハンディキャップを抱える2人が、考えや意見を交換する。

同日午後1時からは、エイズをめぐるいくつかの裁判を取り上げるプログラムが組まれている。解雇などの差別を受けて裁判を起こすに至った経過をたどり、日本社会でエイズがどう見られているのかといった根本的な課題に迫る。

5日は教育に関係するプログラムがある。午前10時からの「性教育に困っている養護教諭のためのつどい」は、千葉県の高校の養護教諭が司会を務める。生徒から相談を持ちかけられる立場から、どう指導、助言してあげられるかを話し合おうという趣旨だ。

同日午後1時からの「学校におけるエイズ教育の効果」では、中学、高校、大学を回って講演を続けているHIV感染者の大石敏寛さんが、これまでの取り組みを発表する。その場だけの知識伝達に終わらず、後の行動に影響を与えるにはどうしたらいいか、などを共に考えたいという。

医師の岩室・早乙女さん 分かりやすく解説

「正しい性知識を知って」
10・20代を対象に本出版

出版された本と新しいパッケージのコンドーム

「愛しているならつけてね」 伝言付きコンドームも開発

うわさや、間違った性情報が入り乱れる10代、20代に正しい知識を知ってほしい――。そんな思いを込めて、厚木保健所保健予防課長で泌尿器科医の岩室紳也さん(45)と、NTT東日本関東病院の産婦人科医、早乙女智子さん(39)が「LOVE・ラブ・えっち Q&A」(保健同人社、千円)を出版した。岩室さんは、女性から男性に向けたメッセージ付きのコンドームも作り、3日からのAIDS文化フォーラムでも発表する。

本では、男女の体や性器の仕組み、セックスやマスターベーションのこと、妊娠と避妊、中絶、性感染症、同性愛などについて、分かりやすく説明している。

1冊の本が「女の子編」と「男の子編」に分かれており、質問に答えて語りかけるように回答が書かれている。

本を作った動機について岩室さんは「性の情報がはんらんしている割には、男女がお互いの性のことや避妊、病気といった大事なことを正しく理解していない」と話す。早乙女さんは「生きる基本であるはずの性がちゃんと教えられていない。自分の体のことすら知らないのは悲しいと思ってほしい」。

また、新しいコンドームのパッケージは2種類で、赤地に「今日はNO!」、黄色地に「愛しているならつけて エチケットしてね」と書かれている。女性の側からなかなか言えない言葉を、男性に読ませることで伝えようという狙いだ。

レッドカード、イエローカードをイメージした。名刺より少し小さいサイズで、硬い紙のケースになっている。

2001年（平成13年）8月5日（日曜日）

毎日新聞

エイズへの理解深めよう

神奈川区でフォーラム

エイズへの理解を深める「2001AIDS文化フォーラムin横浜」が5日まで、横浜市神奈川区のかながわ県民センターで開かれている。今年で8回目。エイズに関する支援活動を行う民間の35団体が全国から集い、さまざまなイベントを通し医学的、社会的視点からエイズを考える。

フォーラム2日目の4日は「バリア」をテーマに、パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIV（エイズウイルス）感染者の桜屋伝衛門さんが対談。周囲の目や内面の葛藤を乗り越え、いかに自分と向かい合ったかを話した。また、正しい性知識や学校での性教育を視野にいれたイベントも多数開かれた。

5日は「医師が語るエイズの基礎知識」など15講座を実施。写真展やパネル展示もある。参加無料。問い合わせは045・662・3721。

2001年（平成13年）8月4日　土曜日

神奈川新聞

共生社会目指し

横浜でAIDS文化フォーラム

エイズへの理解を深める「2001AIDS文化フォーラムin横浜」が三日、横浜駅西口のかながわ県民センターで始まった。地域や海外で地道に活動を続ける市民グループが講演会や体験イベントなどユニークな催しを展開。「偏見をなくし共生社会の実現を」と訴えた。五日まで。

今年で八回目。エイズに対する社会の偏見や誤解をなくす狙いから、今回は「バリア」をテーマとした。

今年四月に県央地域で発足した「AIDSねっとさがみ」は、エイズ問題を訴える新聞の全面広告づくりにチャレンジした。

「若者はマスコミを通じてエイズの存在を知っているが、感染に対する危機意識が薄いなど正しい知識を身に付けていない」（事務局の高村文子さん）。事前に実施したアンケートでそんな実態が浮き彫りになったことを踏まえて企画し、一般参加者とともに「何を伝えるべきか」を考えながら、効果的なPR方法を探った。その結果、保健所検査の受診を勧める内容や三十代と五十代で感染者が増えていることを強調した広告など三種類が仕上がった。作品は期間中、会場に展示される。四日は午後四時から、パラリンピック金メダリストの成田真由美さんらの対談も予定されている。（報道部・渡辺　渉）

新聞の全面広告づくりに挑戦する「AIDSねっとさがみ」のメンバーら

2001年(平成13年)8月5日　日曜日
朝日新聞

障害は現実 悩みも喜びも

AIDS文化フォーラム

横浜市神奈川区のかながわ県民センターで開かれている「AIDS文化フォーラム」で4日、パラリンピック競泳の金メダリスト成田真由美さんと、千葉県に住むHIV感染者の桜屋伝衛門さん（仮名）がトークを繰り広げた。「目に見える障害者」と「見えない障害者」の2人が、いつも思っている不満や悩み、喜びを、笑いを交えながら語った。

「障害がなかったら水泳をしていなかった」と語る成田真由美さん（右）と桜屋伝衛門さん＝かながわ県民センターで

車いす 成田さん「逃げたい」→世界記録

フォーラムには、全国の医療・教育・ボランティアグループなどが参加している。

成田さんは13歳の時にせき髄炎で車いす生活になった。障害者手帳1級で、桜屋さんも免疫機能障害で2級だ。

2人とも10代半ばで自分たちの障害を自覚した。成田さんは「現実から逃げたかった」。桜屋さんは「もういいよ、と投げやりになった」と複雑だった胸中を明かした。

感じる他人の視線。成田さんは思い切り派手な車いすに乗って、それを吹き飛ばしてやろうと思った。「目立てば、ほかの人に障害者の気持ちを考えてもらえるでしょ」

成田さんが使おうとした障害者用トイレは、カギを交番へ借りにいかなくてはならなかった。

「何のために造ったの？げりぴーだったらどうするのよ！」と言って会場を沸かせた。そして、「お金をかけて設備を造るより、一人ひとりの意識を変えることが先決ですよね」と付け加えた。

感染者 桜屋さん「投げやり」→「貴重な体験」

桜屋さんは恋について、「自分の障害を知っている人としか付き合ったことがない。知らない人と無理して付き合いを続けるのもつらい」と言い、新婚の成田さんは「子どもが欲しい」と打ち明けた。しかし、腎臓や心臓の具合が思わしくなく、「医者からは無理をすることはないって言われるけど……」と、複雑な胸の内をのぞかせた。

会場から「障害者になってよかったことは？」という質問が飛んだ。

成田さんは「障害がなかったら水泳をしていないし、パラリンピックに出ていないし、世界記録も出していない。失ったものより、与えられたものの方が多いんです」。桜屋さんは「僕には乗り越えないといけないハードルができたんです。いつもチャレンジ精神を持てて、貴重な体験だと思います」と笑顔を見せた。

付録

ライフ・エイズ・プロジェクトのニュースレター
３２号より文化フォーラム参加報告を抜粋しました。
巻末よりお読み下さい。

リティが多様であることを学ぶこはありませんでしたし、その性教育はむしろひとつのセクシュアリティを前提としたものであったと言えるかもしれません。それぞれ同じ人間のひとつの性のあり方として「セクシュアリティが多様である」ことを今どれだけの人が認識しているのでしょうか。エイズ文化フォーラムだけでなく、全国各地の教育現場や地域でセクシュアリティについてもっと考えていかなければならないと感じました。

（坂東裕基）

文化フォーラムに参加して

来年もぜひ参加し、また多くのことを学びたい

坂東裕基

今年で二度目の参加となるエイズ文化フォーラム。昨年同様に学ぶこと、感じることの多いとても充実した三日間でした。

今回の参加を通じて感じたことは、前回もそうでしたが、やはり感染する可能性の高い十代から二十代や、一般の方々の参加がまだまだ少ないということです。広く市民に開かれているはずのエイズ文化フォーラムがエイズ対する社会的関心の低下とともに、専門家のためのフォーラムになりつつあるように感じました。十代から二十代、一般の方々に参加を呼びかけるとともに、今後はエイズに関してこれからはじめて考えようとする人や、まだ感染者に対して抵抗のある人でも参加し発言できるようなプログラム作りも必要になってくるのではないでしょうか。

また私は今回のエイズ文化フォーラムを通して、たくさんのことを学んだだけでなく、たくさんの方と知り合い、様々な考えを聞くことができました。来年もぜひ参加し、また多くのこと学びたいと思います。

（坂東裕基）

※2002年は8月2日～4日に開催予定とのことです。

あなたにしかできないことを、そして あなたにもできることをお手伝いください

ライフ・エイズ・プロジェクト（LAP）は「HIV感染者・患者のためのサポートグループ」として、93年2月に発足しました。以来、感染者・患者のための宿泊、休憩施設「PHAシェルター」の運営をはじめ、電話相談、バディ活動、交流会、ニュースレターの発行、勉強会・研修会の開催などの活動を行っています。

LAPではこうした私たちの活動を支援してくださる「会員」を募集しています。会員制度は、LAPの活動を維持し、できる限りの支援活動をしていくための人と資金を確保するための制度です。会員の皆様にはニュースレターや勉強会・研修会等の各種資料をお届けいたします。まだ会員の登録をされていない方はぜひ、希望する会員の種類とお名前、ご住所をお書きの上、郵便振替でお申し込み下さい。

個人会員（維　持）	年会費　5,000円	（一口。何口でも可）
個人会員（一　般）	年会費　3,000円	
個人会員（学　生）	年会費　2,000円	（但し、相談に応じます）
団体会員（営　利）	年会費 30,000円	
団体会員（非営利）	年会費 10,000円	（但し、相談に応じます）
資料送付料（非会員）	年　間　3,000円 以上	

振込先：郵便振替　00290-2-43826
口座名義　LIFE AIDS PROJECT

お問い合わせは　〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号　ＬＡＰまで

していく。

山形県で保健婦として働く、渡會睦子さんは結核が優先の現状でエイズがどこまで近づけるか、結核は連携が取れているのに、エイズは周囲の理解がされていない。そんな中、独自に検査を受けやすい環境作りを工夫している。例えば、検査を受けにくる人が、できるだけ人と接することなく検査を受けられるように、受付を無人にし、採血をする人が、カウンセリングをするなど、専任担当者制をとって対応している。その結果、検査を受ける人の抵抗をなくしている。そして、口コミで検査が受けやすいということが広まり、検査を受ける人も増えきているという。「予算がなくても大丈夫。こんな工夫が全国的に広がればいいのに」と期待をしていた。

次に感染者の大谷重夫さんから今までの生い立ちや身近な人に理解されたい思いや実名で活動することについての考えが語られた。

最後に『保健婦―「普通」を守る仕事の難しさ』（家の光協会）の著者の荘田智彦氏から一歩踏み込んだ、次のような意見がだされた。

予防活動は感染した後の生活がサポートできるようにならなければ、継続されない。そんな中、予防が正しくコンドームをつけよう、だけで済んでしまっている風潮に疑問を感じる。そうなると、子どもを産みにくくなる可能性もある。根本的なコンドームの意味はなんなのか？　考えてもらいたい。また母子感染については、12人に1人の割合で感染するという事実がある。最初から、そのリスクを背負って産むということに関して、産まれてくる子どもの人権はどうなるのか？　このようにエイズの問題はエイズ患者だけで考えられるものではない。個人個人がが自分の問題として、愛する人のため、周囲の人々の気持ちを考え、人間的に見ていかなければならない。個人では守りきれない今、社会全体が協力しないと成立しない。

（セリ）

8月5日（日）10時～12時
知った気でいるあなたのための「セクシュアリティ入門講座2」

ライフ・エイズ・プロジェクト（LAP）

昨年、ご好評いただいた「知った気でいるあなたのためのセクシュアリティ入門講座」の第2弾。講師は木谷麦子氏です。

昨年に引き続いて二度目となる「セクシュアリティ入門講座2」。今回は木谷さんの体験と記憶による70年代の女性問題、80年代から90年代の同性愛、トランスジェンダー等のテーマとの出会いや、キンゼイスケールの考え等をもとにホモセクシュアル、バイセクシュアル、ヘテロセクシュアル等、様々なセクシュアリティについて話されました。

LAPは展示ブースで『リスク・スケールづくり～異性間性的接触編～』の実習を行いました

講座では、セクシュアリティに関して今回はじめて考えたという方、ある程度知識のある方等様々な方からの木谷さんへの質問もあり、様々な視点でセクシュアリティについて考えることができました。

今現在学校でどういった性教育が行われているのかは分かりませんが、少なくとも私自身が小、中学生の頃は、性教育でセクシュア

の普及をはかるため来場者と共に考え質疑を交わす参加型講座を企画した。

題名と講師にひかれて参加したこのプログラム。

まずはじめに体位について48あるということで、そのうち連続した16を実際にみせてもらった。このよいところはコンドームがはずれるのを防ぎ、無断でコンドームをはずすのを未然に防ぐことができるということだった。笑顔でしていたことが印象に残った。

次に、講義があった。セイファーセックスとはより安全なセックスということで肉体的・精神的・社会的な安全があるということだった。

精神的安全とは気持ちが傷つかない、気持ちの安全ということで私も共感的に受け止めた。40代男性の中には少なからず、浮気がばれると病気や望まない妊娠よりも社会的地位を失うことを気にしている人がいる、ということで何て気持ちが寂しいんだろうと私は思った。

セイファーセックスにはコンドームを使うことが大切で、すぐに出せるところに置いておくとよい、それから「私はこうしたい」と伝えることが大切といっていた。

最後の質問のところで子どもの虐待・性的いやがらせについて触れ、子どもがしたいこと、したくないことをはっきりわかり、いやだと思ってもよくて、そこから逃げてもいいんだということを知らせる活動があるということで、子どもの頃から人権とかプライドとかコミュニケーション能力をしっかり育てていく必要を感じた。

性産業の現場で働きながら若者たちにセイファーセックスを伝えていっているモモコさんに頼もしいものを感じた。

これからも本当の話をきかせてほしいと思った。

（穂中英美梨）

8月4日（土）16時～18時 国連エイズ特別総会報告

AIDS&Society研究会議
樽井／慶応大学教授、宮田／サンケイ新聞

6月25日～28日にニューヨークの国連本部で開かれた国連エイズ特別総会について、政府代表団のNGO代表、取材にあたった記者から報告。

AIDS&Society研究会議の定例会もかねているようで、よく見るひとたちが多かったです。

国際社会での合意や約束は、国内の政策などにも影響します。今回の会議はいくらお金を出すか、日本は何のイニシアチブをとるのか、ということについて内外の関心を集めていました。

本番の総会以前また始まってからも水面下交渉で話が決まるそうです。本会議はいわば「発表朗読」の場。サテライト会議は全部把握しきれないほどあり、全体がどう動いて流れているのかは理解しにくい、という話でした。

最終的に出された「コミットメント宣言」では、各国とも国際社会だけでなく国内の政策にも課題をもち、2003年までに政策立案がたち、2005年には評価を行えるようにする、となっています。

今の日本の各種の政策はあまりクリアではないようにおもいますが、「外国」という比べるものができたときに、どのような方向へ行くのかは楽しみです。（堀成美 HIV／AIDS看護研究会）

8月4日（土）16時～18時 保健婦ー「普通」を守る仕事の難しさ

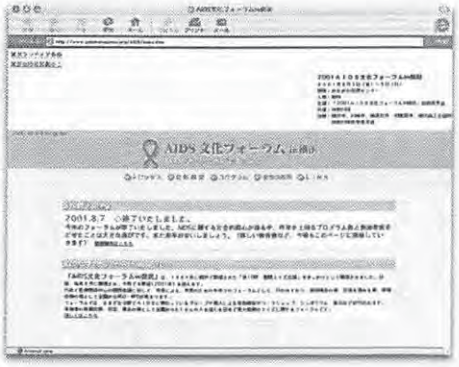
講師：荘田智彦
Peer Network Yamagata（ぴにぃ）

「保健婦」の筆者、荘田智彦氏を迎え、HIV／AIDSにおける保健婦の役割を改めて検討

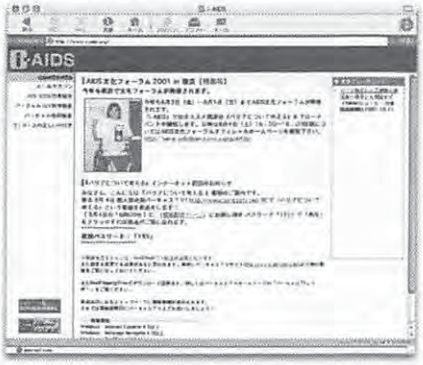
っているかと言えばNO！である。新しいメッセージつきコンドームにこうご期待。

自他ともにみとめる（？）達人によるコンドームの正確な使用方法についてのプレゼンは、男性3名の実演もまじえて「ほんとうにけっこう難しいんだな」と参加者が理解するのに効果的であったとおもいます。実際には、暗闇で、ときにアセる状況でつけたりはずしたりするわけですから、「事前学習」や「実習」が必要なのでしょうね。

コンドームだけで感染を防げないSTDもあり、また破けたり外れたりの事故も多いコンドームですから、「その先」の情報も必要でしょう。参加者はすでに「よく知っている」人が多かったようでした。（堀成美　HIV／AIDS看護研究会）



2001AIDS文化フォーラム in横浜ホームページ
http://www.yokohamaymca.org/AIDS/



4日午後の「バリアについて考える―パラリンピック金メダリスト成田真由美&桜屋伝衛門」はインターネット中継された http://www.i-aids.org/

8月4日（土）10時～12時 学校や地域で役立つ朗読ワークショップ

H.I.Voice Act

H.I.Voice誌を活用した朗読ワークショップを実施しそのスキルを伝える。学校や地域で実施した具体例を紹介し、各地での応用を期待する。

この講座では、まず会話やスキンシップによって、参加者同士コミュニケーションをとることから始まり、これにより会場の雰囲気が和んだところで、エイズに関わる様々な人の声を集めたH.I.Voice誌を用いた朗読ワークショップが行われました。また学校で実施された朗読ワークショップのビデオ紹介などをもとに、学校や地域で朗読ワークショップを行う際のスキル（1．リラックスすること　2．楽しむこと　3．感じること）が伝えられました。

学校や地域でエイズについて学ぶ場合、感染経路や感染防止等の知識面を学ぶことはもちろん大切ですが、それと同様に、感染者の気持ちや感染者のまわりの環境を知り、「何か」を感じ取ることはとても大切なことだと思います。その「何か」を感じ取ることのできる時間が朗読ワークショップにあると感じました。また私自身朗読ワークショップに参加して、一人での朗読や黙読では得られないような場の一体感のようなものを感じとることができました。

この講座をきっかけに、全国各地で朗読ワークショップが実施され、より多くの方々に「何か」を感じ取る機会が与えられればと思います。（坂東裕基）

8月4日（土）13時～15時 セイファーセックス講座「pro-sex」

講師：桃河モモコ
AIDSネットワーク横浜

エイズの正しい知識・予防教育

いま、ひとり一人ができること

「2001AIDS文化フォーラムin横浜」参加報告

8月3日（金）16時～18時 ますますPositive???

パトリック&紳也

HIV（＋）のパトと主治医&友人の紳也ドクター。二人は二人三脚でパトの中のHIVと共にPositiveに生きてきたことを振り返る楽しいトークショー。

現在週刊誌「SPA!」の連載をしながら、自ら経営しているバーで働いているパトさん。紳也ドクターが司会しながら、パトさんに話を伺うトーク形式で和やかなムードで始まった。

「どうしてHIVを持っていると、苦にしなきゃいけないのか?」と昔から明るい性格のパトさんは不思議に思っている。

「今まで35年生きてきて一番良かったことはエイズをもらったこと」と言い切る。その明るさの秘けつは「毎日の生活の中で常に自分の気持ちのコントロールを考えている。今日はどんな気分なのか?」そして「人と話すことで自分の気持ちを落ち着かせている」と。「コミュニケーションは自分のためにある」「コミュニケーションをとることがストレス解消になっている」

「世の中コミュニケーションスキルを持っていない人が多いけど、コミュニケーションスキルは絶対に必要」と呼びかけていた。

「自分はこう考えているけど、どう思いますか?」そんな話ができる相手がいたほうが楽しい。

「誰でも彼でも相談するのじゃなくて、尊敬できる、例になれそうな人に相談しよう」

こんな言葉が象徴しているように、感染したことにより、自分と向き合いながら生きてきた言葉には重みがあった。エイズに限らず生きていく中でコミュニケーションの必要性を痛感した。そんな彼でも「自分の病気のことを人への告知について悩むことが多い」ようで、「感染の可能性ゼロのセックスをしても、エイズという言葉で相手がビビってしまう」のが残念と漏らしていた。（セリ）

8月4日（土）10時～12時 結局、やっぱり、コンドーム

岩室紳也

HIV感染予防にはノーセックスかコンドームしかない。しかし、コンドームが生活習慣にな

※プログラム解説文より。以下同。

LAP社

Life AIDS Project

NEWS LETTER

Vol.32 **2001.10.**

「2001　AIDS 文化フォーラム in 横浜」を支えた人・グループ（順不同・敬称略）

◇組織委員

榊原高尋（横浜いのちの電話）　廣瀬敏行（横浜青年会議所）
古田正一（横浜商工会議所エイズ問題対策懇談会）　八木高子（横浜 YWCA）
安田秀二（かながわともしび財団）　山根誠之（横浜 YMCA）

◇実行委員

広瀬誠	高村文子	藤沢智晴	岡島龍彦	岩室紳也	吉永陽子
濱村嘉允	山形一雄	石黒幸栄	尾辻里美	郡司久子	金井多恵
河西悦子	渡辺亨宏	岡田阿礼	渡辺詢子	菊池恭子	長沢勲
横山良一	矢部尚美	千代木ひかる	高橋亮	森晶子	

◇ ボランティア

原田亜紗比	坂本直子	渡辺みどり	今出賢紀	木下裕理	上野智子
大方智博	塚越祥悟	原田由美子	村田太郎	相川香生里	中山優子
凪初子	大沢一重	田辺和恵	池田昌弘	久保埜慶子	川原友子
山口ちづこ	石川純子	石川きく江	高橋弘子	山下ひろみ	丁子谷菜央
柳沢和起	矢野歩	広瀬謙一	伊原光明	野崎優	木下芳余
松本理保	筒井めぐみ	池田昌弘	石原清子	宇井礼子	寺島万紀子
福祉亮子	田崎優里	古原真澄	立山晶三	渡辺悦子	海野美智子
吉永千尋	吉永さやか	飯野なつみ	吉田悦子	白根泰行	畠山雅行
黒田美智子	山下ひろみ	菅原純子	板橋有里	金森麻記	岩沢美保
菅原由美	秋山さつき	仁島勇介	小沢真折子	伊藤由紀子	赤川悟
髙橋弘子	柴田智恵	中嶋恵子	野口恵子	野崎優	藤原貴之
一澤環	伊藤将	大木祐太	近藤新	三浦充	杉野裕崇
佐野さやか	村沢理	清水隆之	横川さとみ	幸知代	深井久美子
笠井絵里	嵯峨要一	押野なつ子	押野ふゆ子	軽部愛子	堀口孝子
宮原俊貴	上野悠	青木勇	河合美智枝	いいたけちえ	

◇ その他支援

（1）資金援助

横浜青年会議所　かながわともしび財団　横浜いのちの電話
横浜商工会議所エイズ問題対策懇談会　横浜 YWCA
エイズ予防財団　横浜 YMCA

（2）物品・機材提供/貸し出し

キリンビバレッジ㈱　㈱ジャパンビレッジ　㈱ＦＶコーポレーション
オカモト株式会社

（3）ホームページ協力

Campus　AIDS　Interface

（4）会場内書籍販売一部寄付

岩室紳也　吉永陽子　水谷修　鮎川葉子　岡田美里

事　務　局

〒231-8485　横浜市中区常盤町 1-7　横浜ＹＭＣＡ内
TEL045-662-3721　FAX　045-651-0169

「2001 ＡＩＤＳ文化フォーラム in 横浜」報告書

発行日：2002年3月３１日
発　行：ＡＩＤＳ文化フォーラム事務局
発行者：山根誠之
編　集：「2001ＡＩＤＳ文化フォーラム in 横浜」報告書作成委員会